

## 和仏法律学校講義録

掛下, 重次郎 / 矢作, 榮藏 / 松岡, 義正

---

(出版者 / Publisher)

和佛法律學校

(巻 / Volume)

2

(号 / Number)

号外の10

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

55

(発行年 / Year)

1901-06-25

# 和佛法律學校

## 講義錄

第一部

號外之拾

商法海商 (元) (自三五九至三八六) 法律學士掛下重次郎  
表紙及び目次 四頁

破産法 (元) (自五五七至六二〇) 法律學士松岡義正

經濟學各論 (元) (自一八五至一九〇) 法律學士矢作榮藏  
表紙及び目次 八頁

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

# 法學志林

第貳拾號

六月二十日發行

每月一回發行  
定價一冊金拾錢郵稅一冊金壹錢十冊前金壹圓郵  
稅不要  
校友生徒校外生ニ限リ  
特價一冊八錢郵稅壹錢十冊前金六拾錢郵稅不要

●手形ノ振出地ニ志林  
●英國ノ政黨政治ニ關スル英人ノ觀察、法學博士一木喜徳郎  
●假執行ニ關スル諸國ノ法制ヲ論ス(續)、校友木村誠次郎  
●刑事訴訟法ノ猶豫期間、辯護士信岡雄四郎  
●民法第二四〇條ト第一九三條トノ關係、一定時總會招集ノ通知ハ第一回ノ拂込ヲ了ラサル新株主ニモ發スヘキヤ、法學博士梅謙次郎●受寄ノ時計ヲ賣却シタル者ノ處分、法學士岡田朝太郎  
●二十七件  
●例

●詐欺取財罪ト契約、校友守谷富之助  
●振出地ニ關スル東京支店總會○校友會學季大會○校友總會○梅謙次郎君、手塚太郎君  
●律師會及ニ關スル東京支店總會○校友會學季大會○校友總會○梅謙次郎君、手塚太郎君

## 發行所

東京市麹町區富士見町六丁目  
(電話番町一七四)

司法省指定

## 和佛法律學校

ヒ白國商法ニ止マリ獨逸商法ノ如キハ之ヲ認メサルナリ然レトモ船舶ノ賣主ニ其製造人ト同シク先取特權ヲ與フルハ是レ猶ホ民法ニ於テ不動産ノ工事費ニ關スル工匠技師及ヒ請負人ノ如ク不動産ノ賣主民法第三二五條及ヒ動產ノ賣主同第三二二條ニ先取特權ヲ與ヘタルト一般ナルヲ以テ船舶ノ賣主ニモ先取特權ヲ與ヘタルナリ

民法ノ規定民法第三二二條ニ依レハ動產ノ賣主カ之ニ對シテ有スル先時特權ハ第三百三十三條ニ規定セル如ク債務者カ動產ヲ第三取得者ニ引渡シタル後ニ在リテハ消滅スヘケレトモ其動產ニシテ債務者ノ手ニ存スル間ハ消滅スルコトナシ然ルニ船舶ノ賣主ノ有スル先取特權ハ縱令船舶ニシテ其賣主ノ所有ヲ脱セサル間ト雖モ賣買後其船舶ヲ航海ニ用ヒタルトキハ賣主ハ最早之ニ對シテ先取特權ヲ行フコトヲ得サルモノト爲シタルヲ以テ本法ノ規定ハ之ヲ民法ニ比スルトキハ少シク制限セラレタルモノニシテ本法ノ規定外ニ係ルモノニ付キ民法ノ規定ノ適用ヲ受ケントスルコトハ許サレサルナリ而シテ本法ニ於テ制限シタル所以ハ既ニ叙述セタル理由ニ基クモノナレハ此場合ニ民法ノ

090  
1900  
2-2-10

ヒ白國商法ニ止マリ獨逸商法ノ如キハ之ヲ認メサルナリ然レトモ船舶ノ賣主  
ニ其製造人ト同シク先取特權ヲ與フルハ是レ猶ホ民法ニ於テ不動產ノ工事費  
ニ關スル工匠技師及ヒ請負人ノ如ク不動產ノ賣主民法第三二五條及ヒ動產ノ  
賣主同第三二二條ニ先取特權ヲ與ヘタルト一般ナルヲ以テ船舶ノ賣主ニモ先  
取特權ヲ與ヘタルナリ

民法ノ規定民法第三二二條ニ依レハ動產ノ賣主カ之ニ對シテ有スル先時特權  
ハ第三百三十三條ニ規定セル如ク債務者カ動產ヲ第三取得者ニ引渡シタル後  
ニ在リテハ消滅スヘケレトモ其動產ニシテ債務者ノ手ニ存スル間ハ消滅スル  
コトナシ然ルニ船舶ノ賣主ノ有スル先取特權ハ縱令船舶ニシテ其賣主ノ所有  
ヲ脱セサル間ト雖モ賣買後其船舶ヲ航海ニ用ヒタルトキハ賣主ハ最早之ニ對  
シテ先取特權ヲ行フコトヲ得サルモノト爲シタルヲ以テ本法ノ規定ハ之ヲ民  
法ニ比スルトキハ少シク制限セラレタルモノニシテ本法ノ規定外ニ係ルモノ  
ニ付キ民法ノ規定ノ適用ヲ受ケントスルコトハ許サレサルナリ而シテ本法ニ  
於テ制限シタル所以ハ既ニ叙述セタル理由ニ基クモノナレハ此場合ニ民法ノ



正 誤

經濟學各論中左ノ通訂正ス

四八頁「第一節 企業ノ種類」ヲ除ク

一二六頁「第六章 銀行」ノ次へ「第一節 銀行ノ性質」ヲ加フ

一二八頁「第一節 銀行ノ種類」ヲ「第二節 銀行ノ種類」ト改ム

規定ヲモ適用スルコトスルトキハ本法ノ規定ハ全ク徒法ニ歸スヘキナリ(第六八五條第二項)

又最後ノ航海ノ爲メニスル船舶ノ機裝、食料並ニ燃料ニ關スル債權モ船舶ノ航海ニ對シテ功勞ヲ與ヘタルカ故ニ之ニ先取特權ヲ與フルハ當然ナリ而シテ舊商法ニハ燃料ニ關スル債權ヲ加ヘサリシト雖モ燃料ハ食料ト同視スヘキカ故ニ之ヲ茲ニ加ヘタリ

第九 第二號第四號乃至第六號及ヒ前號ニ掲ケタルモノヲ除ク外第五百四十四條ノ規定ニ依リ委付ヲ許シタル債權 船舶所有者ハ第五百四十四條ノ規定ニ依リ船長カ其法定ノ權限内ニ於テ爲シタル行爲又ハ船長其他ノ船員カ其職務ヲ行フニ當リ他人ニ加ヘタル損害ニ付テハ船舶運送貨等ヲ債權者ニ委付シテ其實ヲ免ルルコトヲ得ルモノニシテ船長ノ行爲ノ中本條第四號乃至第六號及ヒ第八號ノ債權ニハ先取特權ヲ與フヘキモノナルコトハ以上叙述シタル如クニシテ且ツ其順位モ各同一ナル能ハサルヲ以テ以上ノ如ク區別シテ規定シタリ而シテ右ノ外第五百四十四條ノ適用ヲ受クヘキ他ノ債權例ヘハ船長其他ノ

船員ノ過失ニ因リ積荷又ハ旅客ノ手荷物ヲ滅失毀損シタルヨリ生シタル債權又船舶ノ衝突シタル場合ニ於ケル損害賠償ノ如キニモ先取特權ヲ與フヘキモノナレハ之ニ其特權ヲ與フルコトト爲シタレトモ其順位ニ至リテハ其性質以上掲ケタル他ノ債權ニ劣ルカ故ニ本號ニ置キタルナリ

以上ハ本法ニ於テ先取特權ヲ與ヘタル債權ナリ

舊商法ニ於テハ船舶ノ構造又ハ機裝ノ爲メノ消費貸ヨリ生スル債權舊商法第八四九條第八號ニモ特權ヲ與ヘタレトモ本法ニ於テハ之ヲ採用セス蓋シ此等ノ債權カ擔保ノ原因ヲ爲スヤ間接ナリ例ヘハ其債權カ金錢ナレハ之ヲ利用シテ生スル結果ニシテ始メテ擔保ノ原因ヲ爲スニ過キス是レ猶ホ舊民法擔保編ニ於テ保證ヲ供スル義務アル公吏ニ保證金ヲ貸與シタル者並ニ不動產ノ讀渡ノ當時其賣買代金又不動產ニ關スル工事請負工匠技師等トノ契約ノ當時工事ノ代金辨濟ノ爲メ金員ヲ貸與シタル者ニ先取特權ヲ與ヘタリシモ新民法ニ於テハ此等ノ者ニ對シ一切先取特權ヲ與ヘサリシト同趣旨ニ出テタルカ如シ且ツ又舊商法第八百四十九條第八號末段ノ債權船舶カ未タ引渡サレサル間ハ自

己ノ計算ニテ構造セシムル者ノ爲シタル代價割拂ニ付テノ債權ニ付テハ債權者ト債務者ト通謀スレハ詐欺ヲ爲シ易ケレハナリ  
舊商法第八百四十九條第九號ニ於テ最後ノ航海又ハ最後ノ保險料支拂期間ニ係ル船舶及ヒ附屬物ノ保險料ニ付テノ債權ニ特權ヲ與ヘタリシモ本法ハ之ヲ採用セス何トナレハ保險料ハ之カ徵收ヲ怠リシ債權者ニ却テ過失アリト云フコトヲ得ヘケレハ其過失アル者ヲ保護シテ特ニ利益ヲ與フルノ必要ナキヲ以テナリ

舊商法ニ於テハ右ノ外向ホ船舶所有者又ハ賣却者ニ對スル總テノ債權ニモ先取特權ヲ與ヘタレトモ(舊商法第八百九條第一三號此ノ如キハ之ヲ與フルノ必要ヲ認メサルカ故ニ本法ニハ採用セザリシナリ若シ舊法ノ如クスルトキハ擔保ノ原因タラサル債權ノ爲メニ先取特權ヲ與ヘ買權者ト看做スコト能ハサル者ニモ先取特權ヲ與ヘ之ヲ要スルニ普通ノ債權者ニ先取特權ヲ與フルニ至リ民法ニ於テ先取特權ヲ與ヘタル債權者トノ權衡ヲ失ス殊ニ本法ニ於テハ本條第八號ノ債權ノ先取特權ハ船舶カ發航スルトキハ消滅スルモノトシタレハ第六八

五條之ト權衡ヲ得ルカ爲メニ先取特權ヲ與ヘサル所以ナリ

舊商法ニ於テハ一般ニ最後ノ航海ヨリ生スル債權ニ先取特權ヲ與フルコトト爲シタレトモ本法ニ於テハ航海ノ前後ヲ問ハス航海ヨリ生シタル債權ニ付キ先取特權ヲ與フヘキ理由アルモノニハ皆一樣ニ之ヲ與ヘ唯其權利ノ順位ニ付テノミ後ノ航海ヨリ生シタルモノヲ前ノ航海ヨリ生シタルモノニ先タシムルコトト爲シタリ(第六八二條第三項)

○運送貨ノ負擔スル責任 第六百八十一條 船舶債權者ノ先取特權ハ運送貨ニ付テハ其先取特權ノ生シタル航海ニ於ケル運送貨ノ上ニノミ存在ス(舊商法第八五〇條、獨商法第七五九條)

船舶ノ運送貨ヲ土地ノ果實ト同視シ船舶債權者ノ債權ニ對シ船舶ト同一ノ責任ニ當ラシムルコトハ既ニ前條ニ於テ叙述シタル所ナリ然レトモ是レ專ラ未收ノ運送貨ニ付テ然ルモノニシテ若シ其運送貨ニシテ既ニ支拂済ト爲リ船舶所有者ノ手中ニ入リタルトキハ最早特別ノ船舶財產ニ非スシテ其普通ノ財產タルヲ以テ特別ノ責任ニ當ルヘキ理アラサルナリ而シテ運送貨カ船舶債權者

ノ債權ニ對シテ責任ニ當ルハ其未收ノ部分ニ限レトモ其未收ノ部分ト雖モ制限ナク悉皆責任ヲ負フモノニ非スシテ亦制限ヲ受クルモノトス即チ數同ノ航海ニ對スル運送貨ノ未タ受取ラサルモノアル場合ニ於テ其責任ハ唯其先取特權ノ生シタル航海ニ於ケル運送貨ノ上ニノミ存在ス例ヘハ橫濱ヨリ香港マテ三同ノ航海ヲ爲シ其第二同ノ航海ニ於テ積荷ヲ滅失シタルヨリ船舶所有者カ其利害關係人ニ對シ損害ヲ賠償スヘキ場合ニ於テハ運送貨ノ其責任ニ當ルモノハ第二同分ニシテ未タ受取ラサルモノニ過キス故ニ若シ第二同分ハ既ニ受取済ト爲レルカ將タ其未收ノ全額ヲ以テスルモ責任ヲ盡スニ足ラサルトキハ縱令第一同及ヒ第三同分ノ運送貨ハ如何ニ多ク存在スルトモ兩同分ノ運送貨ハ其責任ニ當ルモノニ非ス

○先取特權ノ順位 第六百八十二條 船舶債權者ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第六百八十條ニ掲ケタル順序ニ從フ但同條第四號乃至第六號ノ債權間ニ在リテハ後ニ生シタルモノ前ニ生シタルモノニ先ツ同一順位ノ先取特權者數人アルトキハ各其債權額ノ割合ニ應ジテ辨濟ヲ受

ク但第六百八十條第四號乃至第六號ノ債權カ同時ニ生セザリシ場合ニ於テハ後ニ生シタルモノ前ニ生シタルモノニ先ツ先取特權カ數同ノ航海ニ付テ生シタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ拘ハラス後ノ航海ニ付テ生シタルモノ前ノ航海ニ付テ生シタルモノニ先ツ(舊商法第八四九條、獨商法第七〇條乃至第七七三條)

船舶債權者ノ有スル諸種ノ先取特權カ同時ニ於テ互ニ競合スル場合ニ於テハ其順位ハ第六百八十條ニ掲ケタル順序ニ從フモノニシテ其順序ハ曩ニ同條ニ付テ叙述シタルカ如ク總テ學理上ノ理由ニ基キタルモノナリ而シテ船舶及ヒ運送貨ヲ以テ先ツ第一號ノ債權ノ辨濟ニ充テ其殘餘ヲ以テ第二號ノ債權ニ充ツルカ如ク順次ニ之ヲ充用スヘキモノナレハ若シ第一號ノ債權ヲ辨濟シタルカ爲メ毫モ殘餘ナキ場合ニ於テハ第二號以下ノ債權ニ付テハ毫モ配當ヲ受クルコトヲ得サルモノトス然レトモ第六百八十條第四號乃至第六號ノ債權ノ間ハ常ニ必スシモ同條ニ掲ケタル順序ニ從フモノニ非ス此等ノ債權カ同時ニ生シタルトキハ規定ノ順序ニ從フヘシト雖モ若シ其發生ニ前後アルトキハ規定

ノ順序ニ從ハスシテ後ニ生シタルモノ却テ前ニ生シタルモノニ先ツコトセリ  
例ヘハ船舶カ救援救助ノ費用ヲ要シ債權ノ生シタル第五號後ニ至リ航海繼續  
ノ必要ノ爲メ積荷ヲ賣却シテ債權ノ生シタルトキ(第六號ハ規定ノ順序ハ第六  
號ノ航海繼續費ノ債權ハ第五號ノ救援救助費ヨリ劣ルト雖モ之ニ拘ラス第五  
號ノ債權ニ先ツモノトス其第四號ノ債權ト第五號又ハ第六號ノ債權トノ間ニ  
於テモ亦同シキモノトス是レ他ナシ後ニ生シタル債權ニ因リ船舶カ存在シ運  
送貨ヲ取ルコトヲ得ルニ至リタルモノナレハ先取特權ヲ與フルノ精神上固ヨ  
リ然ラサルヲ得サルヲ以テ右ノ如ク規定シタルモノナリ  
以上ハ各種ノ先取特權カ一箇ツツ競合シタル場合ナレトモ各種ノ先取特權者  
數人アルコトアリ例ヘハ第四號ニ於テ水先案内ヲ爲シタル者二人以上アルコト  
挽船ヲ爲シタル者ト水先案内ヲ爲シタル者トアルコトアリ又第六號ニ於テ積  
荷ヲ賣却セラレタル者數人アルコトアリ第七號ニ於テ船長其他ノ船員カ同時  
ニ給料ヲ請求スルコトアリ此等順位同一ナル債權者間ニ在リテハ更ニ區別ヲ  
爲スヘキ理アラサルカ故ニ各其債權額ノ割合ニ應ジテ平等ニ辨濟ヲ受クルモ

ノトス然レトモ此場合ニ於テモ第四號乃至第六號ノ債權カ同時ニ生セシテ  
其發生ニ前後アルトキハ同シク後ニ生シタルモノ却テ前ニ生シタルモノニ先  
ツコトトセリ而シテ此ノ如キ區別ヲ爲ス理由ハ前項ニ叙述シタル所ニ同シキ  
ナリ

前二項ハ先取特權ヲ有スル債權カ同一ノ航海ニ於テ生シタル場合ニ關スルモ  
ノニシテ數同ノ航海ニ付テ生シタル場合ニ非サルナリ例ヘハ横濱ヨリ香港マテ  
一航海ヲ爲シタルトキ日本ノ内海ト香港ノ近海ニ於テ二人ノ水先案内者ヲ雇  
ヒ又ハ往航復航共ニ積荷ヲ航海ノ用ニ供シテ債權ノ生シタルカ如キ場合ナリ  
若シ然ラスシテ二回以上ノ航海ヲ爲シ其都度先取特權者ノ生シタルトキハ其  
債權者間ノ順位ハ航海ノ前後ヲ間ハス通シテ右ノ規定ニ從ハシムルモノニ非  
ス此場合ニ於テハ後ノ航海ニ付テ生シタルモノ却テ前ノ航海ニ付テ生シタル  
モノニ先ツモノトス而シテ是レ二箇ノ意味ニ於テ然ルナリ即チ(一)同一順位ノ  
先取特權例ヘハ第六百八十條第七號ノ債權船長其他船員ノ給料等ハ第二回航  
海ニ付キ生シタルモノ第一回航海ニ付キ生シタルモノヨリ先ツコト換言スレハ

同一順位内ニ於テ優先權ニ前後ヲ生スルコト是ナリ(一)規定上ノ順位カ異ナルニ拘ラス後ノ航海ニ付キ生シタル債權ハ下位ニ在ルモノト雖モ前ノ航海ニ付キ生シタル債權ニシテ上位ニ在ルモノニ先ツモノトス例ハ後ノ航海ニ付キ生シタル船長ノ給料第七號ハ前航海ニ付キ生シタル水先案内料第四號又ハ航海繼續費第六號ニ優先ナルナリ是レ亦先取特權ヲ與フルノ精神上固ヨリ然ラサルヲ得サルモノニシテ後ノ航海ニ付キ生シタル債權ニ因リテ船舶並ニ運送貨ノ存在スルヲ以テナリ

○船舶債權者ノ先取特權ト他ノ先取特權トノ順位——第六百八十三條 船舶債權者ノ先取特權ト他ノ先取特權ト競合スル場合ニ於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

前二條ニ規定シタル先取特權ノ順位ハ船舶債權者ノ有スル先取特權即チ本章ニ規定スル先取特權間ノミニ係レリ然レトモ尙ホ此他ノ先取特權ニシテ本章ノ先取特權ト競合スルコトアリ例ハ民法ニ規定スル一般ノ先取特權ト船舶債權者ノ先取特權ト互ニ競合シタル場合ニハ各其債權ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受

クヘキヤ將タ其孰レヲ先キニスヘキヤヲ規定セサルヘカラス而シテ本章ノ先取特權ノ目的タル船舶及ヒ運送貨ハ所謂海產ナルモノニシテ船舶債權者力之ヲ擔保トシ取引ヲ爲スモノナレハ其債權者ヲ他ノ債權者ニ先ツト爲スハ當然ナリ

○船舶讓渡ノ場合ニ於ケル追及權及ヒ先取特權ノ消滅方法ノ一——第六百八十四條 船舶所有者カ其船舶ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ讓受人ハ其讓渡ヲ登記シタル後先取特權者ニ對シ一定ノ期間内ニ其債權ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ一个月ヲ下ルコトヲ得ス先取特權者カ前項ノ期間内ニ其債務ノ申出ヲ爲ササリシトキハ其先取特權ハ消滅ス(舊商法第八五一條、佛商法第一九三條)

先取特權ハ其擔保スル債權ニシテ時效又ハ其他債權ノ普通ノ消滅方法ニ因リ例ヘハ其債權者カ辨濟ヲ受ケタルトキハ消滅スルハ勿論ナレトモ其外尙ホ特別ノ方法ニ因リテ消滅スルコトアリ今ヤ本條及ヒ次條ニ於テ其特別ノ消滅方法ヲ規定セリ

民事訴訟法ノ規定船舶ニ對スル強制執行又ハ競賣法ノ規定ニ依リテ船舶ヲ賣シタルトキハ船舶ニ對スル先取特權ハ抵當權ノ如ク之ニ因リテ消滅シ先取特權者ハ其代金ノ配當ヲ受クルノミ之ニ反シテ船舶カ任意ニ賣買セラレタルトキハ其船舶債權者ハ民法第三百四條ニ依リ其買主ニ對シテ之ニ規定シタル差押ノ手續ヲ爲スニ於テハ其賣却代金ニ對シテモ先取特權ヲ行フコトヲ得ヘシト雖モ是レ其權利ニシテ義務ニ非サルカ故ニ船舶債權者ハ此方法ニ依ラスシテ普通ノ方法ニ從ヒ船舶カ讓渡サレタル場合ニ於テモ依然船舶ニ對シテ其權利ヲ行フコトヲ得是レ先取特權カ物權ニシテ追及權ノ存スル所以ナリ然レトモ船舶債權者カ船舶ノ賣却代金ニ對シテ其權利ヲ行ハスシテ長ク船舶其物ニ對シテ權利ヲ行フコトトスルトキハ此先取特權ハ民法ニ於ケル不動產ニ關スル先取特權民法第三三七條乃至第三四〇條ノ如ク登記セラレサルカ故ニ其買主ハ自己ノ船舶ニ對シテ如何ナル先取特權カ存スルヤハ知ラザルモノニシテ其代金ヲ支拂ヒタル後ニ至リ再ヒ先取特權者ニ對シテ義務ヲ盡ササルヘカラサルニ至リ任意賣買ノ場合ニ於テモ買主カ或手續ヲ盡シ或期間ヲ

經過シタルトキハ先取特權ハ消滅スルモノトセリ是レ諸國立法例ノ認ムル所ナリ而シテ舊商法ニ於テハ船舶カ讓渡人ノ異議ヲ受クルコトナク取得者ノ名義及ヒ計算ニテ船籍港ヨリ新ニ航海ヲ爲シ且ツ其發航以來少クトモ六十日ヲ經過シタル後消滅スト規定シ外國ニ於テモ佛法系ノ國ニ於テハ此主義ヲ採ルモノ少カラス然レトモ此主義ニ在リテハ先取特權ノ消滅早キニ過キ沿岸航海等ヲ除クノ外ハ多クハ該權ヲ與ヘタル目的ヲ達スルコト能ハス是ヲ以テ本法ニ於テハ此主義ヲ採ラス讓受人ヲシテ其讓渡ヲ登記シタル後先取特權者ハ一定ノ期間内ニ其債權ノ申出ヲ爲サシムル旨ヲ公告セシムルコトト爲シタリ而シテ其期間一个月以上ナリトス若シ此期間カ長キニ失スレハ讓受人ニ不利ニシテ又短キニ失スルトキハ先取特權者ニ不利タルカ故ニ之ヲ一个月ヲ下サル期間ト定メタル所以ナリ

若シ先取特權者カ右期間内ニ其債權ノ申出ヲ爲ササリシトキハ其先取特權ハ消滅スルモノトセリ此ノ如クスルトキハ先取特權者ノ權利モ保護セラレ又船舶ノ讓受人ノ受タル迷惑モ大ナラサルナリ

○先取特權ノ消滅方法ノ二 第六百八十五條第一項 船舶債權者ノ先取特權ハ其發生後一年ヲ經過シタルトキハ消滅ス(舊商法第九七六條佛商法第四三三條獨商法第九〇六條)

船舶債權者ノ先取特權カ長ク存在スルトキハ抵當權者又ハ其他ノ債權者ノ迷惑ヲ被ルコト尠ナラサルヘク殊ニ本法ニ於テハ航海ノ前後ヲ問ハス總テ航海ヨリ生スル債權ニモ先取特權ヲ與ヘタルカ故ニ其債權ノ古キモノ少カラス然ルニ之ヲシテ長ク存在セシムルハ他ノ損害ト爲リ立法上宜ヲ得タルモノト謂フコトヲ得ス而シテ舊商法ニ於テハ極メテ短期(一年)ノ時効ニ因リテ船舶債權者ノ債權其モノヲ消滅セシメ之ト共ニ其先取特權ヲモ消滅セシムルノ主義ナリシカ故ニ別ニ先取特權ノ時効ヲ規定セザリシナリ然レトモ先取特權ハ早ク消滅セシムヘキ理由アルモ之ニ因リテ擔保セララル債權ヲシテ此ノ如キ短期時効ニ羅ラシムルハ不當ナルヲ以テ本法ニ於テ主タル債權ト之ヲ擔保スル先取特權トハ各別ニ其時効ヲ規定シタル所以ニテ本條ニ於テ先取特權ノミニ關スル時効ヲ規定シタルナリ

○先取特權ノ消滅方法ノ三 第六百八十五條第二項 第六百八十條第八號ノ先取特權ハ船舶ノ發航ニ因リテ消滅ス(舊商法第八四九條第七號但書佛商法第一九一條第八項)

船舶ノ賣主製造人其他艙裝食料燃料等ニ關スル債權者ノ有スル先取特權第六八〇條第八號ハ船舶カ發航スルヤ直チニ消滅スルコトトスルハ固ヨリ當然ナリ其理由ハ曩ニ第六百八十條第八號ニ付キ叙述シタレハ今復タ茲ニ詳述セザレトモ要スルニ此債權ハ船舶カ發航スルマテモ辨濟ヲ受クルコトヲ怠ルヘキ性質ノモノニ非サルト此先取特權カ發航後マテモ存スルコトトスルトキハ此ノ如キ先取特權ノ存スルコトヲ知ラサル他港ノ者カ船舶所有者ト取引ヲ爲シ意外ノ損失ヲ受クルトニ在リ

○抵當權 第六百八十六條 登記シタル船舶ハ之ヲ以テ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得船舶ノ抵當權ハ其屬具ニ及ブ船舶ノ抵當權ニハ不動產ノ抵當權ニ關スル規定ヲ準用ス(舊商法第八五二條乃至第八五五條)

船舶ハ所有權並ニ其讓渡ニ付キ登記ヲ爲スカ故ニ不動產ノ如ク抵當權ノ目的



ト爲スコトヲ得ルモノトセリ是レ舊商法並ニ外國ノ立法例ノ普認ムル所ナリ  
加之我邦ニ於テハ舊商法以前ヨリ既ニ抵當權ノ設定ヲ許セシナリ  
船舶ノ屬具ハ其從物ニシテ船舶ノ一部ト看做スモノナレハ船舶ヲ抵當權ノ目  
的ト爲シタルトキハ屬具モ亦隨ヒテ其目的タルコトトスルハ當然ノ規定ナリ  
然レトモ運送貨ニ付テハ舊商法ハ第八百四十九條第十二號ニ於テ抵當權カ當  
然運送貨ニモ及フモノト爲セリト雖モ法律カ付與スル先取特權ナレハ格別當  
事者契約シテ生セシムル抵當權ニ在リテハ運送貨マテモ包含スルモノト想像  
スルコトハ始ト之ナカルヘキカ故ニ本法ニ於テハ之ヲ包含セサルモノトセ  
リ

船舶ノ抵當權ハ不動産ノ抵當權ニ酷似スルカ故ニ不動産ノ抵當權ニ關スル規  
定ヲ茲ニ準用スルコトトシタリ

○先取特權ト抵當權トノ順位——第六百八十七條 船舶ノ先取特權ハ抵當權ニ  
先ナク之ヲ行フコトヲ得舊商法第八四九條獨商法第七一條

此規定ハ舊商法並ニ外國ノ立法例ニモ存スル所ニシテ民法第三百三十九條ニ

於テ登記シタル不動産保存ノ先取特權及ヒ不動産工事ノ先取特權ハ抵當權ニ  
先ツト規定シタルト同趣旨ナリ蓋シ船舶債權者カ修繕費保存費救助費等ヲ支  
拂ヒ又ハ勞力ヲ給シタル等ニ因リ船舶カ存在スルヲ以テ抵當權者モ抵當權ヲ  
行使スルコトヲ得ルニ至リタルモノナレハ先取特權者カ抵當權者ニ先ナク其  
權利ヲ行コトヲ得ルモノトスルハ固ヨリ當然ナリ

○質權——第六百八十八條 登記シタル船舶ハ之ヲ以テ質權ノ目的ト爲スコト  
ヲ得ス

船舶ニ付テハ第六百八十六條ニ於テ既ニ抵當權ヲ認メタルカ故ニ最早質權ハ  
之ヲ認ムル實際ノ必要ナキモノトセリ蓋シ船舶ハ運輸航行ヲ以テ其目的ト爲  
スカ故ニ隨テ質權ヲ認メタル國ニ在リテモ實際ニ於テ質權ヲ生セシムル場合  
極メテ少シ殊ニ其質權ヲ法律ニ於テ之ヲ認ムルニ於テハ尙ホ詳細ナル規定ヲ  
必要トシ實際ニ適用ナキ無用ノ法文ヲ多ク設ケサルヘカラサルニ至ル不利アル  
ヲ以テ本法ニ於テハ之ヲ認メサルコトトセリ

○製造中ノ船舶——第六百八十九條 本章ノ規定ハ製造中ノ船舶ニ之ヲ準用ス

(舊商法第八五七條佛國千八百七十四年ノ法律第五條) 船舶所有者カ金錢ヲ要スルハ之ヲ製造スルノ時ニ在ルヲ以テ其製造中ニ在ル船舶ヲ以テ債務ノ抵當ト爲シ之カ登記ヲ受クルコトヲ得ルニ於テハ船舶所有者ノ爲メ新ニ金融ノ途ヲ開キ造船業ノ獎勵ト爲リ隨テ海商ノ發達ヲ助クルカ故ニ製造中ノ船舶ニ本章ノ規定ヲ準用スルコトト爲シタルナリ  
以上叙述シタル所ヲ以テ海商ニ關スルモノヲ總テ說テセリ然レトモ茲ニ一ノ注意スヘキコトアリ即チ舊商法ハ新商法ノ實施ト同時ニ廢止セラレタレトモ新商法施行後仍ホ海商ノ編中或場合ニ於テハ舊商法ノ效力ヲ有スルコトアリ是レ商法執行法ニ詳ニ規定シアレハ就キテ看ルヘキナリ

### 商法海商 終

(三十三年度講義錄)

法律學士 掛下重次郎 講述

## 商法海商

和佛法律學校發行

## 商法海商目次

|              |     |
|--------------|-----|
| 緒言           | 一   |
| 第一章 船舶及船舶所有者 | 八   |
| 第二章 船員       | 六八  |
| 第一節 船長       | 六八  |
| 第二節 海員       | 一二三 |
| 第三章 運送       | 一五三 |
| 第一節 物品運送     | 一五四 |
| 第一款 總則       | 一五四 |
| 第二款 船荷證券     | 一三九 |
| 第二節 旅客運送     | 二五九 |
| 第四章 海損       | 二七七 |
| 第五章 保險       | 三〇一 |

第六章 船舶債權者

三六〇

第一節

船舶債權者

三六〇

第二節

船舶債權者

三六〇

第三節

船舶債權者

三六〇

第四節

船舶債權者

三六〇

第五節

船舶債權者

三六〇

第六節

船舶債權者

三六〇

第七節

船舶債權者

三六〇

第八節

船舶債權者

三六〇

第九節

船舶債權者

三六〇

第十節

船舶債權者

三六〇

第十一節

船舶債權者

三六〇

第十二節

船舶債權者

三六〇

商法海商目次終

ト同シタ異議申立者ノ有セサル所ナリト謂ハルヲ得サレハナリ殊ニ破産債權者團體ハ破産者ノ一部の承繼人ナルヲ以テ該團體ノ機關トシテ異議ヲ申立ツル管財人カ仲裁契約ヲ無視スルコトヲ得サルヤ當然ナレハナリ又異議ヲ申立アラレタル債權者ト異議申立者ハ仲裁契約ヲ締結シテ異議ヲ確定セシムルコトヲ得何トナレハ此等ノ者ハ亦和解ヲ爲スコトヲ得レハナリウキルモースキ「ベール」タルゼン氏等カスル見解ヲ承認スルハ甚タ理ナシ

獨逸破産法ニ於テハ管轄裁判所カ民事訴訟法其他特別法ノ規定ニ則リテ確定ノ訴ニ付キ判決ヲ爲シ我商法ニ於テモ亦管轄裁判所カ民事訴訟法ノ準用ニ依リ判決ヲ爲スコトハ疑ナシ故ニ審理上ノ便宜ノ爲メ數箇ノ確定ノ訴ヲ併合シ民事訴訟法第百二十條ノ適用商法第一〇二七條成ル可ク合併シテ又判決ニ對シ上訴ヲ爲スコトヲ得民事訴訟法ノ適用商法第千二十七條但書ノ反對推理然レトモ獨逸破産法ト異ニシテ佛蘭西商法ヲ參考トシテ例外ヲ設ケタリ其第一ハ破産手續ヲ迅速ニ終了シ且ツ手數ト費用トヲ省略スルノ目的ヲ以テ訴訟手續上干渉審理主義ヲ採用シ原被兩造ノ辯論ニ重キヲ措カス隨テ當事者雙方期

日ニ出頭セサル場合ト雖モ事件ノ關係ヲ明瞭ナラシムルカ爲メニ主官ノ演述ヲ聽キ(主任官ノ演述ヲ聽クコトハ要件ニシテ單ニ裁判ヲ爲スノ參考ニ供スルモノニアラス故ニ之ヲ聽カスシテ爲シタル判決ハ手續違背ト爲ル)職權ヲ以テ證據調ヲ爲シ判決ヲ言渡ス而シテ當事者ノ辯論ニ重キヲ置カサル結果トシテ關席判決ヲ爲スモ之ニ對スル不服申立方法タル故障ヲ認メサルコト是ナリ是レ前述シタル破産手續ト訴訟手續タル確定手續トノ併合ナル觀念ニ基ケル當然ノ結果ナリ其第二ハ債權者集會ニ於テ異議ヲ受ケタル債權者ヲ參會セシメ以テ議決權ヲ全ウセシメ且ツ故ラニ異議ヲ申立テ惡計ヲ逞シウセントスル不良ノ徒ナカラシメンカ爲メニ債權者集會前ニ成ルヘク判決ヲ爲シ隨テ裁判所ヲシテ訴訟ノ順序番號等ニ拘泥スルコトナカラシメ若シ債權者集會開始前ニ於テ判決ヲ下スコト能ハス又ハ之ヲ下スモ未確定ナルトキハ破産裁判所ヲシテ事情ニ從ヒ集會ニ加入スルノ許否及ヒ金額ノ程度ニ付キ決定ヲ爲シ(見込アル債權者ノ爲メニ假確定ノ利益ヲ與ヘ故意ニ異議ヲ申立ツルノ弊害ヲ防止ス又金額ヲ定ムルハ商法第千三十六條ノ議決權ニ必要アリ)正當ノ債權者

ヲシテ相當ノ債權額ニ付キ債權者集會ニ於ケル議決權ヲ全ウセシムルコト是ナリ但シ前述ノ如ク優先權ヲ有スル債權者ハ優先權アルカ爲メニ普通債權者タルノ資格ナキ者ニアラサルヲ以テ優先權ノミカ異議ヲ受ケタル場合ニ於テ通常債權者トシテ集會ニ加ハルノ妨ト爲ラサルハ當然ニシテ又優先權ノ運命未タ知ルヘカラサルヲ以テ容易ニ破産者ニ利益アル事項ニ賛成スルノ虞ナクレハナリ(第一〇二七條第一〇二八條佛蘭西商法第四九九條第五〇〇條)

届出權利確定ノ訴訟費用ノ負擔ハ民事訴訟法第七十二條以下ノ規定ニ從ヒテ之ヲ定ム而シテ異議ヲ申立テタル管財人ノ負擔スヘキ訴訟費用ハ財團費用ニ屬シ第一〇三二條第一號獨逸破産法第五九條第一號異議ヲ申立テタル債權者ノ負擔スヘキ訴訟費用ハ其債權者一箇ノ負擔ニ歸シ又異議ヲ申立テタル債權者カ勝訴ノ判決ヲ受ケ破産財團ヲ利シタルトキハ不當利得ヲ許ササル民法上ノ原則ニ基キ自己ノ支拂ヒタル訴訟費用ニ付キ破産財團ニ對シ敗訴者ノ負擔義務ニ關係ナク獨立シテ利得額即チ管財人カ訴訟當事者トシテ行動セサルヲ支出ヲ爲ササリシ金額ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

## (C) 判決ノ效力及ヒ登錄

確定ノ訴ニ基キテ届出權利ニ對スル總テノ異議ヲ排斥シタル判決又ハ届出權利ニ對スル異議ヲ理由アリト認メタル判決ヲ確定シタルトキハ總テノ破産債權者ニ對シテ確定判決タルノ效力ヲ有ス獨逸破産法第一四七條上段是レ破産の關係ノ性質ヨリ生スル當然ノ結果ナリ異議ヲ申立テラレタル債權者カ其總テノ異議申立者ニ對シ勝訴ノ判決ヲ受ケタルトキハ之ニ因リテ異議カ排斥セラレ調査會ニ於テ届出權利カ毫モ異議ヲ申立テラレスシテ確定シタルト同一ノ狀態ト爲リ反對ノ場合即チ異議ヲ申立テラレタル債權者カ其或異議申立者ニ對シ敗訴ノ判決ヲ受ケタルトキハ之ニ因リテ破産手續ニ參加スルノ權利ヲ喪失シ異議ヲ申立テス又ハ異議ヲ申立テタルモ敗訴ヲ言渡サレタル他ノ總テノ破産債權者ヲ利益スルモノタリ「フツチング氏カスル效力ヲ説明シテ各異議申立者ハ破産財團ヲ代表スルカ故ナリト云ヒタルハ正當ノ見解ニアラス異議申立者ハ總テノ破産債權者ノ利益ト分離スルコト能ハサル即チ不可分のニ結合シタル自己固有ノ利益ノ爲メニ異議ヲ申立ツル者ナルヲ以テ異議ヲ正當ト

認メタル確定判決カ總テノ破産債權者ノ利益ニ於テ效力ヲ生シ又總テノ異議ヲ排斥シタル爲メ確定判決ハ他ノ異議ヲ申立テサリシ債權者ノ認諾ト結合シテ總テ債權者ニ對シ確定力ヲ有スルモノタリ是ヲ以テ總テノ異議ヲ排斥シタル各判決ノ確定以後即チ届出權利ノ確定以後ニ於テ該權利ヲ爭ヒ再理セシメンコトヲ目的トスル各手續ハ一事不再理ナル確定判決ノ效力ニ依リ排斥セラレ又同一ノ届出權利ニ對シ數箇ノ異議アリテ之ニ關スル訴訟カ各別ニ繫屬シタルトキハ其一ニ屬スル確定ノ訴ニ基キテ言渡サレタル異議ヲ理由アリト認メタル確定判決ヲ他ノ確定ノ訴訟ニ援用シテ請求ヲ却下セシムルコトヲ得ヘシ其他確定ノ訴ニ基キテ判決ハ總テノ破産債權者ニ對シ效力ヲ有スルヲ以テ調査期日ニ異議ヲ申立ツルコト能ハサリシ債權者ト雖モ該效力ヲ否認スルコトヲ得ス

届出權利確定ノ訴ニ基キテ言渡サレタル確定判決ハ破産者ニ對シテモ亦效力ヲ有スルヤ否ヤノ問題ニ關シテハ各國ノ立法例同一ナラス獨逸破産法ニ於テハ破産者ニ届出權利其モノノ確定ニ付キ容豫權ヲ認メサルヲ以テ届出權利ヲ確

定シタル確定ノ判決ハ破産者ニ對シ届出權利其モノノ確定トシテノ效力ヲ有セシ却テ破産の執行權利其モノノ確定トシテノ效力ヲ有スルノミ此效力アルカ故ニ破産手續ニ從ヒテ債權ノ確定シタル債權者ハ破産者ノ財産ニ對シ破産の執行ヲ爲スコトヲ得ルノミ是ヲ以テ債權者力届出權利ヲ確定シタル判決ニ基キテ破産手續終了以後破産者ニ對シ強制執行ヲ爲スニハ即チ届出權利其モノノ確定トシテノ確定判決ノ效力ヲ有セシムルニハ破産者力調査期日ニ於テ届出權利ヲ爭ハサルカ若クハ之ヲ爭ヒタルモ破産者ニ對スル訴訟又ハ破産手續開始以前ニ於テ同一權利ニ付キ破産者トノ間ニ繫屬シタル訴訟手續ノ受繼ニ因リテ破産者ノ爭ヲ除去シ債權表ニ之ヲ記入シ且ツ届出權利カ確定シタルモノトシテ同表ニ記入スルコトヲ要スル手續ヲ完了シタル後確定判決ト同シテ破産手續終了以後破産者ニ對スル強制執行ノ執行名義ト爲ル獨逸破産法第一六四條第一四四條第二項但シ破産者ニ對スル訴訟ニ於テ届出權利カ不當ナリトシテ判決セラレタルトキハ破産手續ニ於テ確定シタルニモ拘ラス破産手續終了以後ニ於テ破産者ニ對シ何等ノ效力ヲ生スルコトナシ蓋シ破産手續ニ於テ

ケル確定ハ破産手續ノ繼續中ニ於テ破産財團ニ對シ破産の執行ヲ爲スノ效力アル旨ヲ認メタルニ止マレハナリ而シテ斯ル判決アリタル場合ニ於テ破産債權者ハ破産手續ニ從ヒテ受取りタル配當額ヲ破産者ニ返還スベキヤ否キニ付キ學說上爭アリ其第一ハ消極說ニシテ届出權利ニ付キ前示ノ效力ハ破産財團ニ關スル管財人ノ處分ノ如ク破産者カ是認セサルヲ得サルモノタリ隨テ配當額ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス其第二ハ積極說ニシテ破産者ハ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得蓋シ異議申立者ト異議ヲ申立テラレタル債權者トノ間ニ於ケル確定判決ヲ破産者ニ對抗スルコトヲ得サルハナリト云フニ在リ届出權利ニ對スル異議ヲ正當ト認メタル確定ノ判決モ亦破産者ノ爲メニ效力ナシ蓋シ該判決ハ届出權利者ノ破産手續ニ參加スルコトヲ排斥スルニ止マレハナリ異議ノ理由ハ届出權利ノ當否ニアラスシテ單ニ破産手續開始以後ニ成立シタルモノナルヲ以テ破産債權ト爲ストノ主張ニ在スルコトアルヲ以テ破産者カ該確定判決ニ基キテ破産手續ヨリ除外セラレタル債權者ニ對シ一事不再理ノ抗辯ヲ對抗スルコトヲ得ス(佛蘭西商法ニ於テハ法律上明文ヲ缺クモ學說上破産者



ニ異議申立權ヲ認ムル結果トシテ届出權利ヲ確定シタル確定判決ハ届出權利其モノトシテノ確定力ヲ有シ破産手續終了以後尙ホ破産者ニ對シ無限ニ執行ヲ爲スコトヲ得セシムルニ似タリ異議ヲ正當トシテ排斥シタル届出權利ハ其排斥ノ形式カ判決タルト不承認訴ヲ提起セスシテ止ミタル場合其モノタルトヲ間ハス破産者ニ對シテ其效力ヲ異ニシタリ届出權利ノ消滅取得破産者ノ無能力意思ノ瑕疵等ノ原因ニ基キテ排斥セラレタルモノハ破産者ニ對スルモ何等ノ效力ナシト雖モ佛蘭西商法第四百四十六條乃至第四百四十九條第九〇條第九九一條ニ基キテ排斥セラレタルモノハ破産者ニ對シテ效力アリ(我商法ハ破産者ニ對シ届出權利ノ確定ニ付キ何等ノ容限權ヲ認メスシテ破産手續ニ於ケル届出權利ノ確定ヲ以テ破産手續終了後破産者ニ對スル無限ノ執行名義ト爲レタリ是レ草案理由書ニ於テ説明スルカ如ク管財人ヲ破産者ノ代理人ト認メタル謬見ニ基キタルモノナリ異議ヲ正當ト認メタル確定判決ノ破産者ニ對スル效力ニ關シテハ毫モ規定スル所ナシ理論上獨逸破産法ト同一ニ結論スヘキモノト思考ス(第一〇四九條)

異議ヲ申立テラレタル債權者カ總テノ異議申立者ニ對シ勝訴ノ確定判決ヲ得タルトキハ届出權利カ調査期日ニ於テ異議ノ申立ヲナクシテ確定シタルト同一ノ狀態ヲ保ツコトト爲ル故ニ異議ヲ申立テラレタル勝訴ノ債權者ハ其勝訴判決及ヒ其確定ノ證明書ヲ破産主任官ニ提出シ調査ノ結果ニ關スル債權表及ヒ債權證書ニ於ケル訴訟ノ訂正即チ届出權利確定ノ登錄ヲ求ムルコトヲ得第一〇二五條第二項獨逸破産法第一四六條第七項參考此登錄ノ效力ハ認定的ニシテ設定のニアラス蓋シ判決ハ其言渡ニ因リテ效力ヲ生スルモノナレハナリ(獨逸破産法ニ於テハ破産者ニ對シ破産手續ニ於ケル確定權利ニ基キ直チニ破産者ニ對シ強制執行ヲ爲スコトヲ得ル場合ニ限リ該登錄ニ他ノ一面ニ於テ設定の效力ヲ認メタリ破産者カ爭ハレタル届出權利ニ關スル確定ノ判決ヲ債權表ニ登錄スルニ因リテ破産者ニ對シ強制執行ヲ爲スコトヲ得ヘシ)之ヲ要スルニ届出權利ハ調査期日ニ於テ異議申立權者ヨリ爭ハレサルカ若クハ爭ハレタルモ爾後取消アリタルカ又ハ確定ノ訴ニ基キタル判決ニ於テ是認セラレタル場合ニ於テ確定スル確定債權ト配當トノ關係ニ付テハ配當ノ説明



ニ讓ル(條件附債權ハ條件附債權トシテ承認又ハ確定ノ判決ニ因リテ確定ス然レトモ條件附債權ハ條件成就ノ際ニ執行の效力ヲ有スルカ故ニ條件成就ノ證明ニハ民事訴訟法第五百十八條ヲ準用シ管財人ノ調査ス管財人カ條件ノ成就シタルモノヲ成就セサルモノト認メタルトキハ民事訴訟法第五百二十一條ヲ準用シテ管財人ニ對シ確證ノ訴ヲ提起スヘク反對ノ場合ニ於テハ民事訴訟法第五百四十六條ノ準用ニ依ル別除請求權ヲ主張スル者カ同時ニ破産債權者トシテ届出ヲ爲シタル場合亦然リ何トナレハ債權其モノハ確定スルモ執行其モノハ條件附ナルヲ以テナリ(第九九九條參考)

### 第三節 破産手續ノ終局

破産手續ノ終局ハ金錢債權ニ付テノ強制執行ノ終局ト相似タリ是レ破産手續ハ金錢債權ニ關スル一般の強制執行ナルヲ以テナリ金錢債權ニ付テノ強制執行ハ債務者ノ財産ヲ差押ヘ之ヲ就賣シ其賣得金ヲ以テ差押債權者ノ爲メニ其債權ノ全部若クハ一部ノ満足ニ供スルコトニ因リテ終局スルト同シク破産の

強制執行ハ破産債權者ノ爲メニ差押ヘタル破産財團ノ管理及ヒ換價ニ因リテ得タル金額ヲ破産手續ニ參加シタル債權者ノ爲メニ其債權ノ順位若クハ平等ノ割合同順位ナルトキハ(ニ應シテ満足ノ用ニ供スルコトヲ因リテ終局ス蓋シ破産財團ノ管理及ヒ換價ニ因リテ得タル金額ヲ破産手續ニ從ヒテ破産債權者ニ配當スルハ破産手續ノ目的ナルヲ以テ該目的ヲ達スルニ因リ破産手續ノ終了スルハ當然ナレハナリ金錢債權ニ付テノ強制執行ニ於テ差押債權者カ債務者ト和解シテ其差押ニ因リテ得タル權利ヲ拋棄シ以テ強制執行ヲ中途ニテ止ムルコトヲ得ルト同シク破産の強制執行ニ於テ破産債權者團體カ破産者ト和解シ其破産の差押ニ因リテ得タル權利ヲ拋棄シ以テ破産の執行ヲ中途ニテ止ムルコトヲ得ヘシ斯ル終了ノ方法ヲ協議契約ト曰フ金錢債權ニ付テノ強制執行ニ於テ差押物ヲ換價スルモ強制執行ノ費用ヲ償ヒテ剩餘ヲ得ルノ見込ナキトキハ強制執行ヲ爲ササルト同シク(民事訴訟法第五五六條第六五六條)破産の強制執行ニ於テ破産手續費用ヲ償フニ足ル破産財團カ存在セオルトキハ破産手續ノ進行ヲ妨ク即チ之ヲ停止シ其他金錢債權者付テハ強制執行ヲ

進行ヲ爲ササルト同シク破産の強制執行ニ於テ破産債權者ノ各自ノ承諾ヲ得タル破産者ノ破産手續ノ停止ヲ求ムル旨ノ申立ニ因リテ破産手續ヲ停止スルヲ當然トス獨逸破産法ハ破産手續ノ終局方法トシテ此四者ヲ認メ我商法ハ前者ヲ認メ又佛蘭西商法ハ後者ヲ認メサリシ左ニ之ヲ分説スヘシ

### 第一款 破産手續ノ停止

學理上破産手續ノ停止ニ破産手續費用ノ不足ニ基クモノト破産債權者ノ同意ニ基クモノトノ二者アリ前者ハ我破産法ノ認ムル所ニシテ後者ハ我破産法ノ認メサルコトハ前述シタル所ナリ又破産手續ノ停止トハ其手續ノ進行ヲ妨タルモノニシテ手續其モノノ終了ニアラス故ニ我破産法ノ破産手續ノ終局ノ外ニ在ルヤ言フ埃タス破産手續費用ノ不足ニ基ク停止ハ破産手續ヲ債權ニ足ル破産財團ノ存セサルカ爲メニ破産手續ノ進行ヲ止メ且ツ破産債權者ノ爲メニ其之ニ對スル各別の執行禁止ノ效力ヲ止息セシムル裁判順メ命令ニ外ナラス而シテ該制度ハ大同小異ノ規定ニ於テ各國ノ立法者雖モタル所ナリ佛蘭西商法第

五二七條、第五二八條、白耳義商法第五三六條、伊太利商法第八一七條、獨逸破産法第二〇四條乃至第二〇六條、埃太利破産法第一五四條、第六六條等。

#### (A) 要件

破産手續費用ノ不足ニ基ク破産手續ノ停止ハ該用語自體ニ於テ言顯ハサルルカ如ク實體的の要件トシテ破産手續費用ヲ債權ニ足ル破産財團ノ存セサルコトヲ要スル場合ニ於テハ破産財團ヲ以テ破産債權者ニ満足ヲ得セシムル破産ノ目的ヲ事實上達スルコト能ハサルヲ以テ破産手續ヲ進行スルコトハ徒ニ金錢ヲ費セテ手續ヲ煩ハスニ過キサルノミナラス費用ノ支途ナキヲ以テ該手續ヲ進行スルコトヲ得サレハナリ是ヲ以テ獨逸破産法第一〇七條第一項、第二〇四條第一項、埃太利破産法第一五四條、第六六條ニ於テハ裁判所ヲシテ破産者ノ財產カ破産手續費用ヲ債權ニ足ラスト認メタル場合ニ於テ破産宣告ノ申立ヲ却下シ又ハ既ニ開始シタル破産手續ノ進行ヲ停止セシメタリ(佛蘭西ニ於テハ千八百七年ノ商法ニ於テ破産手續費用ヲ債權ニ足ルヘキ財團ノ存セサル場合ニ處スヘキ規定ナカリシヨリ事實上斯ル場合ノ發生シタルトキニ於テハ已ムヲ

得ス破産手續ヲ停止スルコト爲リ隨テ一面ニ於テハ管財人ハ破産手續ニ從事セサルヲ以テ債務者カ破産者ニアラサルモノノ如クニ行動シ他ノ一面ニ於テハ破産宣告カ存スルヲ以テ各別ノ執行爲ヲ禁止セラレタル各破産債權者ハ破産者カ爾後財産ヲ取得スルコトアルモ之ヲ差押スルコト能ハサルノ結果ヲ來シ破産者ハ概テ破産宣告以前ニ於テ破産手續費用ヲ償フニ足ラサル財産ノミヲ有スルコトニ著眼シ各債權者ノ訴追ヲ免レントスルノ現象ヲ呈シタルヲ以テ現行商法タル千八百三十八年ノ法律ハ破産手續費用ヲ償フニ足ラサル破産財團ノ存スル場合ニ於ケル停止ヲ規定シタリ(佛蘭西商法第五二七條第五二八條)白耳義商法第五三六條伊太利商法第八一七條面シテ同法ニ於テハ破産者ニ對シ汚辱ノ表彰ヲ被ラシメ以テ之カ洗滌ヲ勉メシムルト破産債權者ノ利益ヲ將來ニ保護シ各別ノ執行ニ於ケル利己行動ヲ妨クル目的ヲ以テ總令翌日ニ至リ破産手續ノ進行ヲ停止スルコトアルモ必ス破産ノ宣告ヲ爲シ國家力之カ爲メニ必要ナル費用ヲ立替フルニ似タリ(佛蘭西商法第四六一條)

我商法ハ佛蘭西法系ニ則リ債務者ノ無資力ノ爲メニ却テ破産宣告ノ效力ヲ免

ルルノ奇觀ヲ避クルカ爲メニ破産ノ宣告及ヒ其公告手續ハ之ヲ實施シ(第九八二條)前條ノ手續ヲ除ク外(其他ノ破産手續ハ停止スルヲ以テ破産者ノ財産カ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラサル場合ニ於ケル關係ヲ明示シタリ)(第九八二條第一項上段)破産ノ宣告及ヒ其手續費用ハ債權者ノ豫納シタル破産手續費用額ヲ以テ之ニ充テ又ハ國庫カ假ニ之ヲ支辨スヘキモノナルコトハ商法施行法第三百三十九條、第四百十條ノ明文上疑ナシ故ニ苟モ破産者ノ財産カ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ル以上ハ縱令破産財團ト破産債權トノ間ニ大ナル懸隔アルヤ又ハ破産財團ノ換價カ困難ナルトキト雖モ破産手續ノ進行ヲ停止セス破産者ノ財産カ破産財團トシテ破産手續費用ヲ償フニ足リ破産債權ニ充ツル場合ニ於テ亦然リ(第九八二條第一項)破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラサルトキ(三)立法論トシテハ破産ハ一ノ強制執行ナルヲ以テ民事訴訟法第五百六十四條第三項、第六百五十六條ノ法意ニ於ケルカ如ク停止スト爲スヲ正當ト信ス但シ破産者ノ財産カ破産手續費用ヲ償フニ足ラサル場合ニ於テ破産手續費用ノ擔保又ハ其他供託アリタルトキハ費用ノ支途アルヲ以テ破産裁判所カ破産手續ヲ續行スル

コトヲ得ヘシ獨逸破産法ハ明文ナキモ斯ル場合ニ於テ破産手續ノ爲不爲ヲ裁判官ノ自由ナル意見ニ任シタリトノ學說アリ佛蘭西商法第五百二十八條ニ於テハ破産其他ノ利害關係人カ破産手續費用ヲ償フニ足ル金錢ヲ管財人ニ寄託シタルトキハ破産手續ノ續行ヲ爲スヘキモノノ如シ然レバ其ノ破産手續費決定アルコトヲ要ス我商法ニ於テハ停止ノ形式ニ關シ特ニ明文ナシト雖モ破産裁判所カ職權ヲ以テ又ハ管財人各利害關係人等ノ申立ニ因リ決定ノ形式ヲ以テ破産手續ノ停止ヲ命シ且ツ該決定ニ對シテハ各利害關係人並ニ破産債權者管財人及ヒ破産者ヨリ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキコトハ破産ノ一ノ強制執行タル性質ヨリ推理シテ明瞭ナリト謂フヘシ民事訴訟法第五四三條第三項第五五八條準用商法ニ明文ナキヲ以テ抗告ヲ許サストノ反對論アリ破産手續ノ停止ヲ命シタル決定ハ總テノ利害關係人ニ破産手續ヲ進行セサルコトヲ又各債權者ニ各別的執行ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ認識セシムルカ爲メニ公告スルコトヲ要ス(第九八二條第一項下段而シテ破産裁判所ハ裁判以前ニ於テ破産財

團カ破産手續費用ヲ償フニ足ルヤ否ヤヲ鑑定セシムルコトヲ得ルヤ當然ナリ」獨逸破産法ニ於テハ破産裁判所カ破産手續費用ヲ償フニ足ルヘキ破産財産カ存セサルモノト認メタルトキハ必ス職權ヲ以テ破産手續停止ノ決定ヲ爲スコトヲ要シ(破産債權者管財人破産者即チ各利害關係人ハ破産裁判所ニ對シ破産手續費用ヲ償フニ足ルヘキ破産財團ノ存セサル旨ヲ注意スルコトヲ得ルニ止マリ之ニ基キテ破産手續ノ停止決定ヲ申立ツル權利ヲ認メラレサリシ該決定ハ破産手續ヲ終局スルノ效力ヲ有スルヲ以テ破産手續ノ終局決定ト同シタ之ヲ公告シ又各破産債權者破産者及ヒ管財人ハ(破産債權者團體ノ機關トシテ該決定ニ對シ其公告ノ日ヨリ二週間内ニ即時抗告ヲ爲スコトヲ得)ソキフヘルド民ハ破産債權者團體ハ其資格ニ於テ破産手續ノ續行ヲ申立ツル權利ヲ以テ管財人カ即時抗告ヲ爲スコトヲ得スト主張シタレトモ通説ニアラス破産者ハ破産宣告ヲ求ムル申立權ヲ有スルヲ以テ停止決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルハ當然ナリ佛蘭西商法第五二七條ニ於テハ破産裁判所タル商事裁判所カ主任官ノ意見ヲ聽キ判決ノ形式ヲ以テ利害關係人殊ニ債權者管財人ノ申立

(B) 效力  
ニ因リ又ハ職權ニテ破産手續ヲ停止スルモノナリ

獨逸破産法ニ於テハ實體上ノ效果ヲ生セサルニ手續ヲ實行スルハ訴訟法上ノ許ササル所ナリトノ觀念ニ基キテ破産手續ノ停止決定ヲ以テ破産の差押權ノ廢止トシ該決定公告ノ效力ヲ生シタル時ヨリシテ破産者ハ破産財團ニ對スル自由處分權ヲ回復シ各破産債權者ハ各別ニ自己ノ權利ノ實行ヲ爲スコトヲ得而シテ破産手續停止以前ニ調査期日ニ於テ債權表ニ確定セラレタルモノトシテ記入セラレタル破産債權ニ關シテハ之ヲ破産者カ同期日ニ於テ爭ハナリシ場合ニ限リ該記入カ破産者ニ對シ執行名義トシテ效力ヲ有ス我商法ハ佛蘭西商法第五二七條ト同シテ破産手續ノ停止ニ破産手續其モノヲ終局セシムル效カヲ認メスシテ單ニ破産手續ノ續行ヲ止ムルノ效力ヲ認メタリ故ニ破産者ニ對スル破産宣告ノ效力ハ有效ニ存在シ破産者ニ爲シタル支拂其他ノ權利關係ハ當然無効ニシテ管財人カ有效ニ支拂ヲ受ケ又破産債權者團體ノ損害ニ於テ爲サレタル破産者ノ行為ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得第九八五條第一〇〇

六條第九九〇條第九九一條等破産債權者ニ對スル破産宣告ノ效力亦然リ唯例外トシテ各破産債權者カ破産手續ノ停止中各別ノ行為ヲ爲スコトヲ得第九八二條第三項佛蘭西商法第五二七條第二項是レ蓋シ破産債權者ハ通常其數甚タ多ク且ツ利害關係多キヲ以テ管財人ヨリ破産者ニ對スル注意ヨリ其程度一層深キカ故ニ特ニ各別行動ヲ許セ成ルヘク其權利ヲ完ウスルコトヲ得セシムルノ目的ニ基ケリ而シテ破産債權者カ各別行動ノ結果トシテ訴訟行為ヲ爲スノ必要ヲ生シタルトキハ(這ハ財産ノ假差押ヲ爲シ又ハ判決ヲ受ケ強制執行ヲ爲サントスル場合ニ起ルヘシ但シ此場合ニ於テハ破産者ノ財産タルニ疑ナキトキハ訴訟ニ至ラスシテ破産手續ノ再施ヲ爲スニ至ルヘシ)商法第千四十九條ニ規定シタル效力トシテ破産者其者ヲ相手方ト爲スベク第一〇四九條ニ債務者ニ對シ(管財人ヲ相手方ト爲スヘキモノニアラス何トナレハ若シ然クスンハ各破産債權者ニ各別ニ行動スルノ權利ヲ認メタル法意ニ反スルヲ以テナリ)各破産債權者ノ各別の行為ニ基キ取得シタル財産ハ其債權者ニ專屬スルヤ否ヤニ付キ學者ノ見解二派ニ岐レタリ第一派ハ返還ノ義務アルハ元來辨濟ノ適



法ナルカ爲メナリ法律ノ許シタル行爲ニ因リテ得タル財産ニ付キ尙ホ返還義務ヲ負フト云フハ解スヘカラナルノ觀念ナリ故ニ此場合ニ於テハ債權者ニ返還ノ義務ナシト云ヒ第二派ハ破産手續ノ停止中ト雖モ破産者ハ尙ホ財産的處分無能力者タリ故ニ債權者一箇人ニ對シ爲シタル支拂ハ財團ニ對シ當然無効タリ故ニ財團ニ返還スヘキヲ當然トス債權者ニ各別的行爲ヲ許シタルハ債權者ニ自己ノ利益ヲ得セシムルカ爲メニアラス破産手續開始以後破産者カ取得シタル財産ヲ保存シ破産手續ヲ再施セシメンカ爲メナリ故ニ破産手續再施ノ場合ニハ債權者ハ其取得ノ財産ヲ財團ニ返還セサルヲ得ス但シ之カ爲メニ要シタル費用ハ破産債權ヨリ先ニ支拂ハルヘキヲ當然ナリ(第一〇三一條ト云ヘリ予輩ハ理論上後説ヲ正當ト信ス)

(C) 終了

獨逸破産法ニ於テハ破産手續費用ヲ償フニ足ル財産ノ存スル旨ヲ證明ニ因リ再ヒ破産手續ノ開始ヲ爲ス我商法ニ於テハ破産者カ破産宣告以後破産手續費用ヲ償フニ足ルヘキ財産ヲ取得セサル以上ハ破産手續ノ停止ハ永久ニ繼續シ

破産者ノ死亡ニ因リ停止ニ終局ヲ來スコトナシ蓋シ破産者ノ死亡ニ因リ財産取得ノ時機ノ到來スルコトナケレハナリ之ニ反シテ破産者カ財産ヲ取得シタルトキハ手續停止ノ要件ヲ缺クニ至ルヲ以テ職權ニテ又ハ各利害關係人ノ申立ニ因リ決定ヲ以テ停止シタル破産手續ノ再施ヲ命スルト同時ニ破産手續停止ノ終局ヲ告グ破産手續費用ヲ償フニ足ルヘキ破産者ノ財産カ存在スルコト顯著ナル場合ヲ除ク外各利害關係人カ之ヲ證明セサルヘカラス是レ手續再施ノ經忽ニ失シ無益ノ費用ヲ生スルノ弊害ヲ防止スルノ注意ナリ破産手續ノ再施ハ停止シタル破産手續ノ續行ニシテ消滅シタル破産手續ヲ再ヒ開始スルモノニアラス故ニ破産手續其モノヲ終局セシムル協議契約ノ取消以後ニ於ケル破産手續ノ再施ト異ニシテ破産手續ノ停止中破産者ノ爲シタル行爲ヲ有效視スルコトヲ得サルナリ手續ハ之ヲ成ルヘク迅速ニ終局セシムルカ爲メニ即時ニ再施スヘク又手續再施決定ハ法律上明文ナキモ各利害關係人ニ知ラシムルカ爲メニ公告ヲ爲スヘキモノト信ス第九八二條第二項佛蘭西商法第五二八條)

## 第二款 協諾契約

協諾契約ナル制度ハ其源ヲ羅馬法ニ發ス「ユスチニヤス」帝ノ法律ニ於テハ近世ノ協諾契約ニ類似スル二ノ制度アリタリ其第一ハ模範的時代ニ於テ既ニ認メラレタル制度ニシテ債務カ資産ヲ超過スル相續ヲ爲スヘキ相續人カ其相續承認以前ニ相續債權者ト約定シテ相續債務ノ一部分ノ免除ヲ得ルモノタリ裁判所ハ相續人ノ申立ニ因リ相續債權者ヲ招集シ相續人ト免除ニ付キ協議セシム招集ニ應ジテ出頭シタル相續債權者カ免除額ニ付キ一致シタルトキハ相續人ハ特ニ何等ノ手續ヲ盡スコトヲ要セスシテ相續債務ノ一部分ヲ免除セラル之ニ反シテ出頭シタル相續債權者カ免除額ニ付キ一致セサルトキハ債權者ノ多數ノ意見ヲ標準トシテ裁判ヲ爲ス其多數ノ計算ハ債權額ニ又時トシテ頭數ニ依リテ之ヲ定ム而シテ債權者ノ可否ノ意見同數ナルトキハ免除ヲ成立セシムルノ裁判ヲ爲ス斯ル方法即チ出頭シタル債權者ノ一致若クハ裁判所ノ裁判ニ依リテ成立シタル免除ハ集會ニ出頭セサル相續債權者ヲ羈束シ又斯ル方法ニ

テ免除ヲ得タル後ニ於テ相續ヲ承認シタル相續人ハ債權全額ノ支拂ヲ請求シタル相續債權者ニ對シ契約抗辯又ハ詐欺抗辯ヲ以テ對抗スルコトヲ得タリ其第二ハ前者ニ比シ其發達力後レタル制度ニシテ債權者カ裁判所ノ其力ノ下ニ於テ行フ財產公賣ヲ避タルカ爲メニ債務者ニ許可シタル延期ヲ裁判所ハ債權者ノ多數カ延期ヲ欲シタルトキハ債務者ニ五箇年ノ延期ヲ許可シ以テ即時ノ財產公賣ヲ避ケシム債權者ノ多數ハ債權額又ハ頭數ニ應ジテ計算シ可否同數ナルトキハ延期ヲ成立セシムル旨ノ裁判ヲ爲ス(此延期ハ時効ヲ中斷ス)此第一制度カ法律ノ發達上大ナル勢力ヲ有シ羅馬註釋派ノ時代ニ於テ失踪シタル債務超過ノ生存者ニ適用アルヤノ問題ヲ生シ羅馬註釋派及ヒ羅馬後註釋派ノ舊學者ハ消極的ニ論結シタリ然レトモ實際上便宜ナルヲ以テ失踪シタル債務超過ノ生存者ニ適用スルノ慣行ヲ生シ羅馬後註釋派ノ新學者ノ是認シ且ツ伊太利ノ市法律ニ於テ該慣行ヲ認メタリ此羅馬法及ヒ伊太利法ノ化合的制度カ歐洲諸國ノ認ムル所ナリ第十七世紀ニ至リテ獨逸ニ於テ普通法ノ學說トシテ貧窮ナル債務者ノ地位ヲ回復セシムルカ爲メニ相續債務カ超過シタル相續債



務ニ其適用ヲ限定シタル羅馬法ノ制度ノ適用ヲ他ノ債務超過ノ場合ニ擴張スルヲ正當トストノ思想ヲ生シ裁判所ノ慣行ト爲リ一般ノ承認ニ因リテ獨逸ノ普通慣行法ト爲リタリ是ヲ以テ普魯西破産法千七百九十三年及ヒ現行獨逸破産法ハ裁判所ノ認可ノ下ニ於テ債權者ノ多數ヲ以テ締結スル延期又ハ免除ニ關スル契約ヲ認メ又佛蘭西ニ於テハ千六百七十三年ノ勅令ヲ以テ始メテ法律上債權者ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ締結スル延期若クハ免除ニ關スル契約ヲ是認シ現行法ニ於テ該制度ヲ維持シタリ(沿革)

破産者ハ破産宣告ノ效力トシテ破産手續繼續中破産財團ニ屬スル財産ニ付キ處分能力ヲ有セス斯ル能力ノ喪失ハ成ルヘク短期ニテ終了スルコトヲ社會政策ノ觀念上希望スル所トス協賛契約ハ配當ニ依ラスシテ破産手續ヲ終了セシムル契約ナルヲ以テ斯ル希望ニ伴フモノト謂フヘシ破産手續カ配當ニ依リ終了シタル場合ニ於テハ爾後債權者ハ其債權ノ未済部分ニ付キ何時ニテモ破産者ノ取得シタル財産ニ對シ執行ヲ爲スコトヲ得斯ル債權者ノ權利ハ破産者ヲシテ爾後其經濟上ノ地位ヲ回復スルニ困難ナラシム協賛契約ハ配當ニ依ラスシ

テ破産手續ヲ終了セシムル契約ナルヲ以テ債權者ハ斯ル執行權ヲ有セス隨テ破産者ヲシテ其經濟上ノ地位ノ回復ヲ容易ナラシム配當ハ時間ト費用トヲ要シ又破産財團カ適當ニ換價セラレサルノ事情アリ協賛契約ハ破産者ノ親族朋友等カ該契約ノ履行ヲ擔保スルノ事情アリ故ニ債權者ハ其債權ニ付キ配當ヨリモ協賛契約ニ於テ多額ノ満足ヲ享有スルコトヲ得ヘシ協賛契約ハ此ノ如ク社會政策ニ適シ破産者及ヒ破産債權者ニ利益アル制度タリ是レ文明諸國カ其破産法ニ於テ協賛契約ヲ是認シタル所以ナリ協賛契約ニ關スル立法上ノ利益ニ我破産法及ヒ獨逸破産法ニ於ケル協賛契約ハ破産手續以後ニ於テ配當ニ依ラズシテ破産手續ヲ終了セシムルコトヲ目的トスル契約タリ破産手續開始以前ニ於テ破産手續ノ開始ヲ避クルコトヲ目的トスル契約ハ特ニ之ヲ支拂猶豫トシテ規定シタリ瑞西破産法第二九三條以下自耳義法千八百八十七年六月二十九日法律葡萄牙商法第七三〇以下等ノ立法ニ於テ通常ノ協賛契約ノ外ニ豫告的協賛契約ト稱シテ破産手續開始以前ニ於テ破産手續ノ開始ヲ避クルコトヲ目的トスル協賛契約ヲ認メタリ佛蘭西ニ於テハ其商法第五百四十一條ニ於テ

通常ノ協議契約ノ外ニ權利拋棄ニ基テ協議契約ナル制度ヲ設ケ其成立ニ因リ通常協議契約ト異ニシテ破産者カ喪失シタル破産財團ニ於ケル管理處分權ヲ回復スルコトナク配當ニ於ケルト同シク總破産財團ヲ換價シ破産債權ノ辨濟ニ供シ其結果不足アルモ配當ト異ニシテ破産者カ該不足額ニ付キ各破産債權者ヨリ執行ヲ受クルコトナキモノト爲シタリ故ニ該制度ハ配當ト通常トノ中間ニ在ル性質ヲ有スト謂フヘシ又破産前ニ於ケル合意の協議契約ナル破産當事者間ノ契約ヲ認メ破産宣告以前ニ於テ債權者ト支拂停止ノ債務者トノ契約ヲ以テ破産手續費用ト其緩慢トラ遅クルコトヲ得セシメタリ而シテ這ハ當事者間ニ於ケル單純ノ契約ナルヲ以テ通常ノ協議契約ニ於ケルカ如ク裁判所ノ認可ヲ必要トセス又多數決ヲ以テ成立セス承諾ヲ爲シタル債權者ニ對スルニアラスンハ效力ナシ其他ノ效力及ヒ消滅等ハ契約ノ法則及ヒ當事者ノ意思ニ依リ定マルモノタリ(協議契約ノ種類)

## (一) 意義

協議契約ハ破産財團ノ配當ヲ爲スコトナクシテ開始シタル破産手續ヲ終局セ

シムルノ目的ヲ以テ破産債權者團體ト破産者並ニ破産者ノ爲メニ參加シタル者トノ間ニ締結シ且ツ裁判所ノ認可ヲ經タル訴訟的契約ナリ左ニ之ヲ分説スヘシ

(A) 性質 協議契約ハ契約ナルヤ裁判ナルヤ或ハ法規ナルヤハ學者間ニ爭アル問題ナリ協議契約ハ契約ナリトノ學說ハ古來ヨリ學者ノ主張シタル所ニシテ又予輩ノ贊成スル所ナリ該學說ニ從ヘハ協議契約ハ債務ノ免除又ハ履行ノ延期ノ爲メニ多數決ニ依レル破産債權者ト債務者トノ間ニ締結セラレ少數反對ノ債權者又ハ議事ニ參與セザリシ債權者ヲ驅束スルノ效力アリ其理由ハ(1)獨逸破産法理由書ニモ明言スルカ如ク破産ニ因リテ破産債權者ハ法律上團體關係ヲ組成ス而シテ斯ル團體關係ニ於テハ強制的多數決ノ支配ヲ拒ムコトヲ得サルナリ之ヲ換言スレハ法定要件ノ下ニ於テ多數ノ意思カ總員ノ意思ト同一價值アルコトハ獨リ協議契約ニ於ケル特別ノ現象ノミナラス會社ノ定款ニ基テ多數決債權者集會ニ於ケル多數決ニ於テ之ヲ見ル(2)反對少數ノ債權者カ多數決ニ驅束セラレルハ裁判所ノ認可カ少數反對ノ債權者ノ同意ニ代リ又出

頭セサル債權者カ多數決ニ羈束セラルルハ多數決ニ同意ナリトノ擬制ニ因リテ成立スル懈怠ノ結果タリ

協諾契約ハ裁判ナリトノ學說ハ獨逸ノ「シュルツエ」氏カ首唱シタル所ニシテ裁判所ノ認可即チ破産の請求ヲ裁判其モノニ於テ確定シタル方法ニ於テ終局スルコトヲ認メタル裁判カ即チ協諾契約タリ破産者ノ爲ス協諾契約ノ提供ハ裁判ヲ求ムルノ申立ニシテ法定要件ノ下ニ於テ成立シタル破産債權者ノ多數ノ意思表示ハ契約上ノ意思表示ニアラスシテ協諾契約ナル裁判ヲ下スノ理由標準タリトノ論旨ニ基ケリ此學說ハ協諾契約ヲ契約ト爲スニ於テハ少數反對ノ債權者ヲ羈束スル法理ヲ説明スルニ足ラストノ思想ニ基因シタルモノナルヘシト雖モ協諾契約ニ關スル沿革法理ニ反シ法律カ協諾契約ノ至要ノ要素ト認メタルモノヲ隱蔽シ至要ノ要素ト認メサル裁判所ノ認可ニ重キヲ置クノ缺點アリ又裁判所ハ當事者間ニ效力ヲ有スルニ止マルヲ以テ協諾契約ヲ裁判ト爲スモ少數反對ノ債權者ヲ羈束スル法理ヲ説明セズ故ニ多數ノ學者ノ反對スル所ナリ協諾契約ハ契約ニアラス裁判ニアラス事實トシテ破産者ノ提供債權者集會ノ

決議及ヒ破産裁判所ノ認可ナル法定事實カ發生シタルトキハ該三法律の行爲ノ併合ニ因リテ協諾契約ヲ爲シ少數反對ノ債權者カ認可セラレタル協諾契約ニ羈束セラルルハ直接ニ法、規、其モノニ依從スルモノナリトノ學說ハ専ラ獨逸ノ「エツケル」氏等ノ唱フル所ナリ此學說ハ協諾契約ノ性質ヲ説明セシテ法定事實ニ對シ如何ナル行爲ナルヤノ論結ヲ爲スコトナクシテ満足シタルモノナリ而シテ法律上論結ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ斯ル消極の觀念ヲ以テ満足スルコトハ已ムヲ得サルヘシト雖モ協諾契約ハ契約トシテ法律上正當ニ説明スルコトヲ得ルヲ以テ斯ル消極の觀念ヲ墨守スルコトハ失當ナリ故ニ此說ハ多數學者ノ採ラサル所ナリ

協諾契約ハ民事訴訟法ニ於ケル和解ト同シク一ノ訴訟の契約ナリ破産關係即チ訴訟關係ノ消滅ヲ目的トスル訴訟の契約ナリ訴訟ノ目的ヲ成ルヘタ容易ニ且ツ適切ニ達スルカ爲メニスル訴訟の契約タリ故ニ契約ニ關スル民法ノ規定ハ破産法ニ於テ別段ノ規定ナキ場合ニアラスハ協諾契約ニ準用セラレス又協諾契約ハ一方ニ於テハ破産者カ債權者ニ對シ成程度ニ於テ債務ヲ履行スヘ

キ旨ヲ約シ他ノ一方ニ於テハ破産債權者團體カ破産手續開始ニ因リテ破産者ノ財産ニ付キ取得シタル權利ヲ拋棄シ且ツ各破産債權者トシテ有スル破産手續終局以後ニ於ケル執行權ヲ拋棄スルノ内容ヲ有ス故ニ債權ノ一部免除又ハ履行ノ延期スルコトアリ或ハ同時ニ免除及ヒ延期スルコトアリ然レトモ之カ爲メニ協議契約ヲ債務免除ノ契約ナリト速斷スヘカラス蓋シ協議契約ハ民法上免除ノ效力ヲ破産手續終局ノ效力ト同時ニ並ヒ生セシムル訴訟的契約ナレハナリ其他協議契約ハ我民法ノ所謂和解ノ種類ニ屬セス蓋シ我民法ハ和解ノ範圍ヲ當事者カ互ニ讓歩ヲ爲シテ其間ニ存スル法律關係ニ付テノ爭ヲ止ムルコトヲ目的トスル契約ニ制限シ獨逸民法第七百七十九條ニ於ケルガ如ク法律關係ノ不明瞭又請求ノ實行ニ關スルハ不確、實ノ除去ヲ目的トスル契約ヲ和解ト認メサレハナリ又協議契約ハ贈與ノ種類ニ屬セス故ニ債權ヲ處分スルノ權利ヲ有スル者ハ有效ニ協議契約ノ締結ニ參加スルコトヲ得免除和解及ヒ贈與ヲ爲スニ付テノ前提條件ノ存スルコトヲ要セス(ブルストライ)氏ハ協議契約ハ公法的要素トシテ共同利益ノ爲メニ多數決ニ服從スヘキ義務ヲ負ヒ私法的要

素トシテハ破産者ト債權者トノ間ニ自由ニ取結ヒタル和解契約ナリト曰(ヘリ)  
(B) 當事者 協議契約ハ一ノ契約ナルヲ以テ其成立ニ付キ當事者ノ存スルコトヲ要スルヤ言フ埃タス而シテ當事者ノ一方ハ破産者タルコト疑ナシト雖モ他ノ一方カ何人ナルヤニ關シテハ學者間ニ爭アル所ナリ破産手續ノ開始ニ因リテ破産債權者團體ノ發生スルコトヲ否認スル學者ハ多數ノ各債權者カ結約者ナリト主張シ且ツ此派ニ屬スル「フツチング」「エンデマン」氏等ノ如キハ協議契約カ少數反對ノ債權者ヲ法律上代理スルカ故ナリト主張シ又「ペーテルゼン」「クラインフヘルレル」氏等ノ如キハ協議契約カ當事者ト爲ラナル少數反對ノ債權者ヲ羈束スル理由ヲ説明シテ立法者ノ命令ニ基クト主張シタリ又破産手續ノ開始ニ因リテ破産債權者團體ノ發生ヲ是認スル學者殊ニ「キフヘルド」「ツツハ」氏等ハ破産債權者團體カ結約者ナリト主張シ協議契約カ總破産債權者ニ對シ又ハ其爲メニ效力ヲ有スル理由ハ破産債權者團體カ其機關タル債權者集會ニ依リテ破産者ノ申込ヲ承諾シタルニ在リト説明シタリ然レトモ獨リ「コーレル」氏ハ一方ニ於テハ破産債權者團體關係ノ存在ヲ認メ他ノ一方ニ於テハ破産

債權者カ團體トシテニアラスシテ却テ單獨ニテ協議契約ヲ締結ス而シテ該契約カ少數反對ノ債權者ノ利益及ヒ不利益ニ於テ效力ヲ有スル理由ハ該契約カ合一的ニ效力ヲ生スルコトヲ得ヘキ差押關係ノ消滅ヲ目的トスル訴訟的契約ナレハナリト云フニ在ルモノノ如シ余輩ハ「ブキンヘルド」氏ノ見解ヲ以テ最モ正當ト信ス蓋シ法定代理說ハ法定代理ノ觀念ニ反スルヲ以テ又法律ノ規定說ハ毫モ説明ト爲ラサルヲ以テ破産債權者團體ノ存在ヲ否認スル學說ハ正當ニ協議契約カ少數反對ノ破産者ヲ羈束スル法理ヲ説明スルニ適セザレハナリ是ヲ以テ債權者集會ニ於テ各破産債權者カ破産者ノ協議契約ノ提供ニ付キ爲レタル賛否ニ關スル意思表示ハ申込ニ對スル承諾若クハ拒絕ニアラスシテ決議ニ關スル意思ノ表示タリ適法ノ多數決ニテ成立シタル債權者集會ノ決議力申込ニ對スル承諾若クハ拒絕ナリト知ルヘシ

協議契約ノ民法的效果ヲ擔保スル保證人ハ訴訟的契約タル協議契約ノ締結者タリ蓋シ該契約ニ因リテ破産關係ヲ終了スルヲ以テナリ故ニ民法上ノ效力タル擔保責任ヲ負フト同時ニ訴訟上ノ效力トシテ總テ破産債權者殊ニ破産債權

ノ届出ヲ爲サザリシ債權者ニ對シ責任ヲ負フ  
(C) 認可 協議契約ノ成立ニハ破産裁判所ノ認可ヲ要ス此認可ハ「警察」的行爲ニ屬シ訴訟的契約ヲ法律上完成セシムルカ爲メニ新事物ヲ設定スル決定ニシテ既存ノ事物ヲ確定スルノ意味ニ於ケル裁判即チ破産手續ノ終局ニ關スル破産者ノ權利ニ付キ爲シタル認定の裁判ニアラス蓋シ協議契約ハ破産債權者ヲ詐害スルノ目的ニテ濫用セラレ立法ノ精神ニ背馳スルコトアルヲ以テナリ是ヲ以テ破産裁判所ハ協議契約カ公益ニ觸ルル所ナキカ法定要件ヲ缺キタル所ナキヤヲ調査シ斯ル缺點ノ存セサル場合ニ於テ認可ヲ爲ス而シテ斯ル警察上ノ目的ヲ達セシムルカ爲メニハ決定ナル訴訟的形式ヲ以テスルヲ適當トス是ヲ以テ法律ハ訴訟的形式ニ於テ協議契約ノ認可ヲ扱ハシム  
認可ハ訴訟的契約ヲ法律上完成セシムル目的ノ爲メニ存スル設定の裁判ナルヲ以テ協議契約ノ訴訟的及ヒ民法の效力ハ裁判所ノ認可ニ因リテ發生ス故ニ裁判所ノ認可アリタル以上ハ縱令前提要件ニ錯誤ノ存スル場合ト雖モ協議契約タルノ效力ヲ有ス然レトモ裁判官カ錯誤ニテ第三者ヲ協議契約上ノ保證人

前提シテ認可ヲ與ヘタルトキハ認可ハ無効ナリト謂ハサルヘカラス何トナ  
レハ第三者ハ斯ル認可アリタルニ因リテ協議契約ニ羈束セラルルノ理ナク且  
テ協議契約ノ效果ハ關聯シテ分離スルコト能ハサルモノナレハナリ  
(二) 成立 協議契約ハ裁判所ノ認可ニ因リテ破産者ト破産債権者團體ト間ニ於テ締結  
セラルル契約ナルヲ以テ其成立ニ關シ破産者ノ提供即チ申込破産債権者團體  
ノ可決即チ承諾及ヒ裁判所ノ認可ヲ要件トスルヤ言フ埃タス左ニ之ヲ分説ス  
ヘシ  
(A) 提供 協議契約ノ提供ハ法律上ノ義務ヲ履行シ且ツ有罪破産ノ判決ヲ受  
クス又ハ其審問中ニ在ラサル破産者カ法定ノ方法ニ基キ之ヲ爲スコトヲ得  
ルモノタリ  
(a) 協議契約ハ主トシテ破産者ノ利益ノ爲メニ存ス第一〇三八條「……破産者  
ニシテ……獨逸破産法第七三條」故ニ唯破産者ノミカ協議契約ノ申込ヲ爲ス  
コトヲ得管財人各破産債権者及ヒ破産主任官等ハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ破

産者ニ對シ協議契約ノ申込ヲ爲スヘキ旨ヲ勸誘スルコトヲ得ルヤ言フ埃タス  
是ヲ以テ破産者カ訴訟能力者ナルトキハ其本人又ハ其相續人カ協議契約ノ提  
供ヲ爲スコトヲ得破産者カ法人其他訴訟無能力者ナルトキハ其法定代理人カ  
破産者ニ代リテ其權利タル協議契約ノ提供ヲ爲スモノト知ルヘシ(破産者ノ遺  
産相續人カ數人アル場合ニ於テハ該相續人カ一致スルニアラスンハ協議契約  
ノ申込ヲ爲スコトヲ得サルヘシ獨逸破産法第二百三十條第一項我民法第一千三  
條參考)

協議契約ハ破産者ノ財産關係ノ量定ニ付キ十分ナル權限ヲ缺クノ事情ノ存ス  
ル場合ニ於テハ之ヲ許スコトヲ得ス破産者カ法律上ノ義務ヲ履行セス或ハ有  
罪破産ノ判決ヲ受ケ其他審問中ニ在ル場合ハ前示ノ事情ノ存スル場合ニ外ナ  
ラサルヲ以テ協議契約ノ締結ヲ許サス隨テ斯ル破産者ハ協議契約ノ提供ヲ爲  
スコトヲ許サス(協議契約ハ善良ナル破産者ノ不幸ヲ救済スルニ爲メナリ故ニ  
法律上ノ義務ヲ履行セス或ハ有罪破産ノ判決ヲ受ケ其他審問中ニ在ル破産者  
ニ對シテハ協議契約ヲ許スノ價值ナシトノ論旨ハ不當ナルニ似タリ何トナレ



ハ協賛契約ハ獨リ破産者ノ利益ヲ爲メニスルノミナラス又破産債權者ノ利益  
ノ爲メニスルモノナレハナリ第二〇二八條獨逸破産法第一七五條法律上ノ義  
務ヲ履行セサル破産者トハ商法第九百七十九條第九百九十條第九百九十二條  
第一千二百條第一千三十五條等ノ規定ニ反シタル破産者タリ獨逸破産法第一七五  
條第一項有罪破産ノ確定判決ヲ受ケタル破産者トハ詐欺破産者及ヒ過怠破産  
者トシテ罰セラレタル者タリ(千八百七年ノ佛蘭西商法ハ我現行法ト同シテ過  
怠破産者モ亦詐欺破産者ト同シテ破産契約ノ申込ヲ爲スコトヲ得サル旨ヲ規定  
シタレトモ現行佛蘭西商法ハ酷ニ失ストシテ唯詐欺破産者ノミニ制限シタリ  
(佛蘭西商法第五一一條獨逸破産法第一七五條第三項亦然リ余輩ハ立法上失職  
ナルヲ以テ詐欺破産者ニ限定スヘキコトヲ正當ト認ム)有罪破産ノ審問中ニ在  
ル破産者トハ有罪破産ニ關スル豫審若クハ公判ノ訴訟手續カ屬セラレタル  
被告人タリ獨逸破産法第一七五條第二項佛蘭西商法第五一〇條ニ於テハ有罪  
破産ノ確定判決アリタル場合ニ限りテ協賛契約ノ締結ヲ許サス故ニ協賛契約  
カ裁判所ノ認可ヲ經テ完成シタル後ニ於テ有罪破産ノ判決カ言渡サルルコト

アリ又協賛契約決議ノ際ニ破産者カ詐欺破産ノ審問中ニ在ルコトアリ前者ノ  
場合ニ於テハ協賛契約カ無効ト爲リ第一〇四二條佛蘭西商法第五二〇條後者  
ノ場合ニ於テハ破産手續進行上ノ延期ヲ認容シタリ蓋シ協賛契約ヲ許スモ後  
日有罪判決ノ言渡ニ因リ無効ニ歸スルコトアルヘク無罪判決ノ言渡ニ因リ協  
賛契約カ完全ニ實行セラルルコトアルヘク隨テ協賛契約ノ遂ヲ捨テ配當ノ途  
ニ出ツルハ大ニ不利益ヲ來スコトアルヘキヲ以テ協賛契約ノ採否ヲ決スルコ  
ト能ハサルカ故ナリ但シ這ハ破産手續ノ進行ニ遲延ヲ來スヲ以テ法律ハ之カ  
採決ニ大ナル制限ヲ加ヘタリ斯ル立法例ハ破産手續ノ進行ニ遲滯ヲ來スノ虞  
アルヲ以テ採用スルコトヲ得サルモノタリ

(b) 協賛契約提供ノ決定方法トシテハ

第一ニ破産者ハ準備手續トシテ少クモ第一債權者集會期日ヨリ二十日前ニ協  
賛契約ノ申立者ヲ破産裁判所ニ提出シ該裁判所ハ之ヲ其書記課ニ備ヘ公衆ノ  
展閱ニ供シ且ツ其旨ヲ公告ス是レ相手方タル破産債權者團體ニ熟慮ノ期間ヲ  
與フルカ爲メナリ故ニ申立書ニハ協賛契約提供ノ内容ヲ明示セサルヘカラス而



シテ法律ハ協議契約申立書ノ提出カ唯第一債權者集會期日ヨリ二十日前タルヲ以テ要件ト爲シタルニ止マルカ故ニ債務者ハ該申立書ヲ破産宣告ヲ求ムル申立ト同時ニ提出スルコトヲ妨ケラレヌ又該申立書ハ協議契約ノ準備書面ニ止マテ其提供ニアラサルヲ以テ破産者カ債權者集會ニ於テ協議契約ノ申込ヲ爲ササルトキハ協議契約ノ成立ナシ第一〇三八條第二項申立書トアルカ故ニ書面的申立ニ限定スルノ法意ト解スヘカラス破産者ハ口頭ニテ斯ル申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ但シ斯ル場合ニ於テ裁判所書記カ調書ヲ作成シ之ヲ申立書ニ代用スルヤ當然ナリ佛蘭西商法第五〇四條獨逸破産法第一七三條第一七四條第一七八條第一七九條

第二ニ破産者ハ通常第一債權者集會ニ於テ主任官ノ認可ヲ經テ協議契約ノ提供ヲ爲ス(書面又ハ口頭ニテ)主任官ノ認可ヲ經ルコトヲ要スルハ主任官ヲシテ要件ノ當否理由ノ有無ヲ豫斷シ徒ニ債權者集會ノ議事ヲ擾亂セシムルニ止マル破産者ノ行爲ヲ防止スルニ在リ故ニ主任官ハ協議契約ノ提供ヲ形式上及ヒ實體上不當ト認ムル場合ニ於テハ命令ヲ以テ排斥スルコトヲ得第九八三條

第一〇三八條獨逸破産法第一七五條通常第一債權者集會ニ於テ提供スルコトヲ要スルハ債權調査完結後ニアラスンハ破産債權ノ數額及ヒ破産債權者ノ員數ヲ確認スルコト能ハサルヲ以テ破産債權者團體トシテ正確ニ協議契約ノ當否ヲ判定スルコト能ハサルカ故ニ通常ノ債權調査會ヨリ四週日後ニ於テ開會スヘキ第一債權者集會ニ於テ協議契約ノ提供ヲ爲シタルヲ正當ト認メタルニ在リ故ニ第一債權者集會以後ニ於テ協議契約ノ提供ハ之ヲ許サヌ是レ破産手續ノ進行ヲ延滞セシムルノ虞アレハナリ但シ十分ノ理由アルトキ即チ破産手續ノ進行ニ多少ノ延滞ヲ來スモ協議契約ノ成立カ當事者ニ利益多キトキハ例外トシテ協議契約ノ提供ヲ許ス第一〇三八條第一項佛蘭西商法第五〇七條獨逸破産法第一七三條其他支拂停止ノ日時ノ確定ヲ要ス何トナレハ支拂停止ノ日時ノ確定ノ如何ニ因リ破産者ノ取引ニ影響ヲ及ホシ債權者ノ員數ニ減少ヲ來ス所アルヲ以テナリ

第三ニ協議契約ノ提供ハ一同ニ限リテ之ヲ許シ一同ノ提供ヲ許サヌ其理由ハ(1)破産手續ノ進行ニ付キ延滞ヲ來ス損害ヲ避ケ(2)破産者カ成ルヘク協議契約

上ノ負擔ノ輕微ナルコトヲ欲スルカ爲メニ試驗的ニ數同ノ協議契約ノ提供ヲ爲スノ弊害ヲ避クルニ在リ(第一〇三八條、獨逸破産法第一七六條)

破産者ノ協議契約ノ提供ヲ破産債權者團體カ承認スルマテハ取消スコトヲ得何トナレハ協議契約ノ提供ハ一ノ申込ニ外ナラサレハナリ又破産債權者團體カ協議契約ノ提供ヲ承諾スル以前ニ於テ破産者カ死亡スルトキハ該提供ハ其效ヲ失フ但シ破産者ノ承繼人ハ新ニ内容ヲ同シウシ又ハ之ヲ異ニスル協議契約ノ提供ヲ法定ノ方法ヲ經テ爲スコトヲ得ルヤ當然ナリ

(a) 協議契約ノ提供ニハ其内容トシテ債權者ニ満足ヲ享有セシムル方法及ヒ其擔保方法ヲ明示セサルヘカラス(獨逸破産法第一七三條、協議契約ハ債務ノ一部免除及ヒ債務ノ履行延期ノ方法ヲ以テ債權者ニ満足ヲ享有セシムルニ外ナラナルカ故ニ協議契約ノ提供ニハ債務ノ一部免除ノ割合又ハ債務ノ履行延期ノ時間若クハ此二者ヲ明示セサルヘカラス、隨テ斯ル明示ヲ缺タ提供ハ其效ナシ

協議契約ノ提供ニハ債權者カ代物辨濟ニテ満足ヲ享クル旨ヲ明示スルコトヲ

得其債權者ハ破産債權者ノ二三タルコトアリ又ハ總體タルコトアリ其代物辨濟ノ用ニ供スル破産財團ハ財團ノ二三タルコトアリ又ハ總體タルコトアリ蓋シ破産債權者ハ破産財團ニ屬スル特定ノ財産又ハ全部ノ財産ヲ自己ニ移轉セシメ之ヲ裁判外ニテ配當シ或ハ破産債權者中ノ一人カ破産財團全部ヲ取得シ之ト同時ニ他ノ破産債權者ニ對シ特定ノ割合ニ於ケル満足ヲ享有セシムル債務ヲ負フ旨ノ協議契約ヲ締結スルコトヲ得レハナリ其他協議契約ノ提供ニハ第三者カ破産者ノ連帶債務者トシテ又ハ保證人トシテ債權者ニ其満足ノ享有ヲ擔保スル旨ヲ明示スルコトヲ得ヘシ然レトモ停止條件若クハ解除條件ニテ爲ス協議契約ノ提供ハ法律ノ許ササル所ナリ蓋シ條件附提供ハ協議契約ノ締結ヲ條件ニ繫ラシム隨テ破産手續ノ終局ヲ條件ニ繫ラシメテ不確實ト爲ルヲ以テナリ(獨逸「コーレル氏」ハ反對說ヲ主張セリ)又始期ヲ附シタル協議契約ノ提供ハ該期日ノ到來マテハ其效ヲ生スルコトナク終期ヲ附シタル協議契約ノ提供ハ破産者カ何時ニテモ該提供ノ取消ヲ爲スコトヲ得ルカ爲メニ終期ノ實效ナシ

## (B) 承諾

協賛契約ノ承諾ハ破産債權者團體カ法定ノ方法ニ基キテ之ヲ爲ス

(a) 協賛契約ノ相手方ハ破産債權者團體タルコト前述ノ如シ故ニ其期間タル債權者集會ニ於テ承諾ニ關スル意思ヲ表示シ協賛契約ハ配當ニ依ラスシテ破産手續ノ終局ヲ目的トスルモノナルコト前述ノ如シ故ニ協賛契約ノ提供ニ關スル承諾ノ意思表示ニ付テノ議事ハ配當ニ依ル破産手續終局ノ決議認可以前ニ於テ爲スコトヲ要ス

## (b) 協賛契約締結ノ法定方法トシテハ

第一ニ破産者若クハ其代理人カ集會期日ニ出頭シテ協賛契約ノ提供ヲ爲サザルヘカラス然ラズンハ協賛契約ノ提供ナキヲ以テ協賛契約ノ成立スルコトナクシテ集會期日カ終了スレ協賛契約ニ關スル手續カ口頭タルコトヲ要スルカ爲メナリ但シ破産者ノ期日ノ懈怠カ已ムコトヲ得サルノ理由ニ基クトキハ延期スルコトヲ得ヘシ破産者ノ爲メニ協賛契約ニ參加スル第三者又集會期日ニ於テ擔保ヲ爲ス旨ヲ申立テサルヘカラス而シテ此第三者ハ本人ニテ又ハ代

人ニテ集會期日ニ出頭スルコトヲ得ルハ言フ埃タス  
協賛契約ノ提供カ其申立書ニ記載シタルモノト内容ヲ異ニスルコトアリ斯ル場合ニ於テハ該内容ノ變更ハ破産債權者團體ノ利益ニ歸スルヤ否ヤヲ區別シ前者ノ場合ニ於テハ協賛契約ノ提供トシテ之ヲ取扱フコトヲ得ヘシト雖モ後者ノ場合ニ於テハ經合集會期日ニ出頭シタル總破産債權者カ可決シタルトキト雖モ協賛契約ヲ締結スルニ足ル提供トシテ取扱フコトヲ得ス何トナレハ期日ニ出頭セサル者ニ不利益ヲ被ラシムル法則ハ斯ル場合即チ關席判決ヲ爲ス場合ニアラサル場合ニ適用ナクレハナリ

第二ニ債權者ノ集會ニ參加スルコトヲ得ル各債權者カ協賛契約ノ締結ノ當否ヲ決議ス蓋シ協賛契約締結ノ當否ハ一ノ會議事項ナレハナリ故ニ(1)集會ニ參加スルコトヲ得ル債權者ハ破産者ノ親族又ハ配偶者タルノ理由ヲ以テ協賛契約ノ決議ニ參加スルコトヲ妨ケラレス然レトモ此種ノ債權者ハ破産者トノ情實上之ニ利益ナル協賛契約締結ニ容易ニ賛成スルノ虞アリ是ヲ以テ破産裁判所ハ認可ノ際ニ嚴重ナル調査ヲ爲スヘキモノナリ(第一〇四)條第二項ニ據西

破産法第二三九條第二項第三〇九條智利商法第一四六〇條末項匈牙利破産法(第二一二條第二項等)ノ如キハ破産者ト親族上ノ關係アル債權者ニ對シ協議契約ノ締結ニ關スル決議ニ加ハルノ權利ヲ認メナリシ獨逸破産法佛蘭西商法等ハ我商法ト同シク反對ノ立法ヲ爲シ破産裁判所ヲシテ認可ノ際ニ嚴重ナル調査ヲ爲サシム(2)優先權ノ確定シタル債權者ハ其優先權ヲ拋棄スル限度又ハ其不足ノ限度ニ於テ協議契約ノ締結ニ加ハルコトヲ得而シテ優先權アル債權者ハ協議契約締結ノ決議ニ加ハリタルカ爲メニ優先權ヲ喪失スルコトナキハ我破産法ノ解釋トシテ特ニ明文ナキヲ以テ疑ナキ所ナリ(佛蘭西商法第五〇八條白耳義商法第五一三條伊太利商法第八三四條等ハ優先權ヲ喪失セシメ英吉利破産法第九條乃至第一七條奧太利破産法第二一三條第二一四條)及ヒ獨逸破産法第八八條ハ反對ニ立法シタルリ優先權ヲ拋棄セスシテ破産債權金額ニ付キ協議契約ノ締結ニ關スル決議ニ參加シタルハ一ノ錯誤ナリ錯誤ノ爲メニ優先權ヲ喪失セシムルハ不當ナルヲ以テ佛蘭西派ノ立法例ノ失當ナルコト明白ナリ(3)管財人ニシテ債權者タルモノ亦協議契約ノ締結ニ關スル決議ニ參加ス

ルコトヲ得智利商法第一四六〇條ハ反對ニ立法シタル

第三ニ協議契約ノ承諾ニハ特別ノ多數決即チ總債權額ノ四分ノ三以上ニ當ル出席員ノ過半数ノ可決ヲ要ス(第一〇三九條第一項)各國破産法ハ協議契約ノ承諾ニ付テ多數決ノ制度ヲ認メタレトモ多數決ノ程度ヲ同シウセス佛蘭西商法第五百七條獨逸破産法第八十二條白耳義商法第五百十二條第二項伊太利商法第八百三十三條第一項等ハ佛蘭西商法ト立法例ヲ同シウス(斯ル特別ノ多數決ヲ要スルハ協議契約ノ成立カ當事者ニ重大ナル利害關係アルヲ以テナリ債權額ト債權者ノ員數トノ多數決ヲ要スルハ少數多數ノ債權者若ハ多額少數ノ債權者ニ協議契約ノ締結ニ關スル全權ヲ掌握セサシムルノ法意ナリ總債權額即チ出席シタル債權者ノ有スル債權額ニアラスシテ届出タル債權額ノ四分ノ三ニ當ル多數決ヲ要スルハ期日ニ出頭セサル債權者ノ利益ヲ擔保スルノ法意ニシテ又議決權アル債權者ノ過半数ニアラスシテ集會期日ニ出席シタル議決權アル債權者ノ過半数ニ當ル多數決ヲ要スルハ商法第一千三十六條前段ニ同一法意ニ出テ且ツ協議契約ノ成否ヲ債權者ノ多數ノ怠慢ニ係ラシメサル

ノ法意ニ出ツ而シテ債權者カ期日ニ出席シタルモ協諾契約ノ成立ニ付キ賛否ノ意思ヲ表示セス若クハ該意思ノ表示カ無効ナルトキハ該表示ヲ承諾ノ計算ニ入ルコトヲ得ス何トナレハ法律ハ協諾契約ノ承諾トシテ議決權ヲ有シ且ツ有效ニ該權利ヲ行使シタル債權者ノ過半数數カ明示的ニ協諾契約ノ成立ニ賛成シタルコトヲ要シタレハナリ隨テ協諾契約ノ利益ヲ害ストノ理由ヲ以テ賛否ノ意思ヲ表示セサル者ハ其表示以前ニ退席シタル者ト同シク出頭セサル者ト認ムヘシトノ論旨ハ正當ト謂フヘカラス

總債權額ノ四分ノ三以上ニ當ル出席債權者ノ過半数數カ協諾契約ノ締結ヲ可決シタルトキハ協諾契約ノ提供ニ對スル破産債權者團體ノ承諾ヲ爲シ唯裁判所ノ認可手續カ終了セサルノミ故ニ破産當事者ニ於テハ完全ニ協諾契約カ成立シ各當事者ヲ羈束ス隨テ破産者ハ爾後協諾契約ノ提供ヲ自由ニ取消スコトヲ得ヌ又破産者カ死亡スルモ協諾契約ニ何等ノ影響スル所ナシ之ニ反シテ協諾契約ノ提供ニ對シ總債權額ノ四分ノ三ニ當ラサル出席債權者過半数ノ決議總債權額ノ四分ノ三ニ當ルモ出席債權者ノ過半数ニ充タサル決議若クハ總債權

額ノ四分ノ三ニ當ラス出席債權者ノ過半数ニ充タサル決議カ成立シタルトキハ協諾契約ノ提供カ拒絕セラレタルモノト爲ル而シテ協諾契約ノ提供ハ前述ノ如ク一同ニ限リ許サルヘキモノナルヲ以テ第一〇三八條第一項佛蘭西商法第五二九條第一項獨逸破産法第一七六條協諾契約ノ提供カ一旦拒絕セラレタル以上ハ爾後如何ナル事情ノ變更ヲ來スモ協諾契約ヲ以テ破産手續ヲ終局スルコトヲ得サルハ是レ立法上嚴格ニ失スト謂ハサルヲ得ス(獨逸破産法第一八二條ハ總債權額ノ四分ノ三以上ニ當ル多數決又ハ出席債權者ノ過半数ニ達シタル多數決カ成立シタル場合ニ於テハ破産者ノ利益ノ爲メニ之ニ期日ノ終局ニ至ルマテ一同限リ決議再施ヲ新期日ニ爲スヘキ旨ヲ申請スルコトヲ得セシメ又佛蘭西商法第五〇九條壞太利破産法第二一八條第二一九條伊太利商法(第八三五條日耳義商法第五一五條等ニ於テハ必ス新期日ニ於テ決議ヲ再施スルコトヲ要シタリ決議再施ノ期日ニ於テハ以前ノ期日ニ出頭セサル債權者モ出頭シテ賛否ニ加ハリ又以前ノ期日ニ出頭シテ決議權ヲ行使シタル債權者ハ前ノ賛否ニ拘ラス自由ニ賛否ヲ爲スコトヲ得蓋シ以前ノ期日ト以後ノ期日ト

ニ於テ必スシモ其事情ヲ同シウスルモノニアラサレハナリ而シテ決議再施ノ期日ニ於テ適法ノ多數決ニ達セサルトキハ協議契約提供ノ拒絶ト爲リ更ニ決議再施ヲ爲スコトナシ是レ破産手續ノ進行ニ延滞ヲ來スヲ以テナリ

(e) 協議契約ノ提供ニ關スル議決手續ノ進行ノ大要該提供ノ變更議決ノ結果及ヒ決議ニ加ハリタル債權者ノ氏名並ニ其賛成ハ之ヲ債權者集會ノ調査ニ記載セサルヘカラス(民事訴訟法第一二九條乃至第一三二條而シテ該調査ハ一ノ公正證書ナレハ其反對ヲ證スルニハ偽造ノ申立ニ依ラサルヘカラス

(C) 認可

協議契約ノ提供ニ對スル承諾ニ因リテ破産者參加第三者及ヒ破産債權者團體トノ間ニ契約ヲ成立シ各當事者ハ自由ニ之ヲ取消スコトヲ得ス而〇四〇條前シテ該契約カ協議契約トシテ有效ナルニハ尙ホ破産裁判所ノ認可ヲ要ス(第一段獨逸破産法第一八四條第一項其理由ハ前述シタル所ナリ依テ左ニ認可ニ關スル裁判手續ヲ略述スヘシ

(a) 認可ニ關スル裁判ノ前手續 破産裁判所ハ破産者各破産債權者及ヒ管財

人ノ申立ニ因リ契約ノ成立後十日ノ期間満了後ニ於テ主任官ノ意見ヲ聽キ決定ノ形式ヲ以テ協議契約ノ認可ニ關スル裁判ヲ爲ス故ニ認可ニ關スル裁判ノ前手續トシテ第一ニ破産者各破産債權者及ヒ管財人ノ申立アルヲ要ス破産者及ヒ各破産債權者ハ利害關係者トシテ又管財人ハ執行機關トシテ認可ヲ求ムルノ申立權ヲ有ス申立ノ方式及ヒ其期間ハ法定キタル所ナリ是レ右申立人ノ便宜ニ委スルノ任意ナリ故ニ申立ハ書面又ハ口頭ニテ爲スコトヲ得ヘシ我商法草案理由書ニ依レハ破産裁判所ハ申立ニ因ラスシテ職權ヲ以テ認可ニ關スル裁判ヲ爲スモノノ如シト雖モ法律上明文ナキヲ以テ不告不理ノ原則ニ基キ申立ニ因リテ認可ニ關スル裁判ヲ爲スモノト解スルヲ正當ト認ム(佛蘭西商法第五一三條ニ於テハ協議契約ノ認可ニ付キ利害關係人ノ申立ヲ要シ獨逸破産法(第一八四條第二項)ニ於テハ破産裁判所カ協議契約ノ期日若クハ其期日終結前ニ言渡シタル同期日ノ續行期日ニ於テ債權者管財人等ヲ審議シタル後ニ職權ヲ以テ認可ニ關スル裁判ヲ爲ス)第二ニ破産裁判所ハ契約ノ成立ヨリ十日ノ期間満了シタル後ニアラスンハ認可ニ關スル裁判ヲ爲スコトヲ得ス(第一〇四



○條末段是レ協請契約ノ成立ニ對シ異議ヲ申立タルコトヲ得管財人亦然リ佛蘭西商法ハ管財人タル職務ノ性質上破産關係者多數ノ利益ニ反スル行爲ヲ爲スコトヲ得サルモノニシテ異議申立權ヲ認メザレトモ我商法ハ起草者ノ說ニ基キ管財人ニ該權ヲ認メタリ蓋シ多數決ハ必スシモ破産關係者全體ノ利益ト謂フヘカラス又不法ノ協請契約ヲ完成セザラシムルヲ要スルヲ以テ管財人ニ新ル申立權ヲ認ムルハ甚タ正當ノ立法ナリト謂フヘシ破産者ハ異議ヲ申立タルコトヲ得ス何トナレハ若シ之ヲ許スニ於テハ破産者カ債權者團體ノ承諾シタル契約ヲ契約法ノ原則ニ反シ異議申立ノ形式ヲ以テ取得スルニ至ルヘキヲ以テナリ優先權者假確定ヲ認許セラレタル債權者及ヒ協請契約可決ニ於テ未タ債權ノ確定セサル債權者亦然リ此等ノ者ハ法律ノ保護ヲ要スルニ足ルヘキ利害關係ヲ有セザレハナリ異議ハ理由ヲ付シ協請契約ノ成立後十日内ニ管轄裁判所ニ申立タルヘカラス而シテ法律上明文ナキモ異議申立書ノ原本ヲ破産者管財人等ニ送達シ防禦方法ヲ準備セシムルヲ適當トス第一〇三九條第二項佛蘭西商法第五一二條第一項其他破産裁判所ハ主任官ノ演述ヲ聽キタル後

ニアラスンハ認可ニ關スル裁判ヲ爲スコトヲ得ス其理由ハ前述タル所ナリ然レトモ裁判以前ニ債權者管財人等ヲ審訊シ之ニ意見ヲ表示スルノ機會ヲ與フト否トハ破産裁判所ノ自由タリ(第一〇四〇條中段佛蘭西商法第五一二條第二項第四五二條)

(b) 認可ニ關スル裁判手續 破産裁判所ノ法定棄却ノ原因其他ノ棄却ノ原因カ存スルト否トニ從ヒテ協請契約ノ認可又ハ棄却ニ付テハ決定ヲ爲シ(第一〇四〇條中段)同時ニ異議ノ申立ニ付キ裁判ス

(1) 破産裁判所カ法定棄却ノ原因以外他ノ棄却ノ原因ニ基キテ協請契約ヲ棄却スルノ決定ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤハ何等ノ明文ナキヲ以テ疑ナキコトヲ得スト雖モ余輩ハ我破産法ノ解釋トシテ我商法(第一〇四一條)ハ佛蘭西商法第五一五條ト同シテ例示的ニ法定棄却ノ原因ヲ規定シタルニ止マリ他ノ原因ニ基キテ棄却ノ決定ヲ爲スコトヲ得ストノ法意ニアラス隨テ積極的ニ論結スルヲ正當ト信ス(獨逸破産法ハ第八十七條ノ後段ニ於テ裁判所ノ自由判斷ニ據ル法定棄却ノ原因ヲ掲ケタルノ外法定棄却原因ノ存スル場合ニハ必ズ破産裁

判所ヲシテ協議契約ノ棄却決定ヲ爲サシメ反對ノ場合ニハ該決定ヲ爲スニト  
ヲ得サラシメタリ而シテ其棄却原因ニ職權ヲ以テスルモノト申立ニ因ルモノ  
トノ二者アリ獨逸破産法第一八六條第一八七條第一八八條第三項ニ  
協議契約ニ關スル法定棄却ノ原因第一〇四一條ノ第一ハ協議契約ノ成立ニ際  
シ商法第三十八條及ヒ第三十九條ノ規定ヲ踐行セザルトキ是カヲ獨逸破  
産法第一八六條第一項第一七三條乃至第一八三條第二項第一條第一項第二三〇  
條第三項ハ蓋シ法意ニ伴ハサル協議契約ナルヲ以テ之ヲ認可セザルヲ當然トス其  
第二ハ協議契約ニ依リ或債權者カ其承諾ナクシテ偏頗ノ處置ヲ受ケ損害ヲ被  
ルトキ是ナリ抑モ破産手續ハ各破産債權者ニ平等ノ満足ヲ得セシムルコトヲ  
目的トスルヲ以テ協議契約ノ内容トシテ各破産債權者ノ權利カ同等ナルコト  
ヲ要ス故ニ甲破産債權者カ協議契約ニ依リ乙破産債權者ヨリモ多額ノ割合ニ  
於ケル金額ヲ受取り優等ナル擔保ヲ供セラレ又ハ支拂期日カ近キニ在ルカ如  
キ優先ノ取扱ヲ受ケタルカ如キ場合ニ於テハ協議契約ヲ認可スルヲ得ス但シ  
各破産債權者ヲ不平等視スルノ禁止法ハ劣等ノ取扱ヲ受ケタル債權者カ該取

扱ヲ受ケタルコトヲ承諾シタル場合ニ於テモ行ハルヘキ絶對的法規ニアラス新  
ル債權者カ其承諾上劣等ノ取扱ヲ受ケタルハ敢テ妨ナキ所ニシテ法律ハ一私人  
ノ意思ニ反シテ其利益ヲ保護スルモノニアラス是レ法律カ其承諾ナクシテト  
云フ所以ナリ獨逸破産法第一八一條其第三ハ協議契約カ詐欺其他不正ノ方法  
ヲ以テ成リタルトキ是ナリ詐欺トハ錯誤ノ故意ノ挑發又ハ其利用ニシテ破産  
者カ貸方ヲ隱蔽シ借方ヲ偽記スカ如キハ之ニ屬シ第一〇五條又不正ノ方法  
トハ普通ノ觀念上排斥スヘキ各種ノ手段ニシテ破産者カ賄賂ヲ贈リ又ハ特定  
ノ債權者ニ特別ノ利益ヲ供スルノ密約ヲ爲シ協議契約ニ依リテ特種ノ債權者  
ヲ優待スルノ事項ハ商法第四十一條第二項ノ支配スル所ナリ協議契約ヲ成  
立セシムルカ爲メニ破産債權者ノ債權ヲ買収シ又ハ之ヲ分額スルカ如キハ之ニ  
屬ス第三者殊ニ破産者ノ朋友親族等ノ詐欺其他ノ不正ノ方法ニ因リテ協議契  
約ヲ爲シタル場合亦然リ是レ商法第四十一條第三項ニ於テ破産者ノ行爲ヲ  
限定スヘキ旨ヲ規定セサル所以ナリ而シテ斯ル不正ノ方法ニ因リテ成リタル協  
議契約ハ該決ノ嚴正ヲ害シ法意ニ伴ハサルモノヲ以テ之ヲ認可スヘカラサル

ヤ勿論ナリ然レトモ詐欺其他ノ不正ノ方法ナクシテ法定ノ多數決カ成立スヘキモノナルトキハ此等ノ方法カ協議契約ノ認可ニ影響スル所ナカルヘシ何トナレハ斯ル場合ニ於テハ詐欺其他ノ不正ノ方法カ多數決ヲ成立セシメタル原因ト爲ラサルヲ以テナリ第三者カ自己ノ資金ヲ以テ破産債権者中ノ或者ニ辨濟ヲ爲シ以テ協議契約ノ成立ヲ容易ナラシメタルカ如キ事情亦然リ何トナレハ他ノ債権者ノ利益ハ之カ爲メニ害セラレナリシヲ以テナリ其第四ハ協議契約カ公益ニ觸ルルトキ是ナリ破産者カ詐欺取財其他背信罪ノ刑ニ處セラレ又ハ其業務ニ付キ怠慢ナリシコト明白ナル場合ニ於ケルカ如ク破産者カ協議ノ恩典ニ浴スルノ價值ナキ場合ニ於テ協議契約ヲ認可スルハ其濫用ニシタ公益ニ反ス故ニ斯ル場合ニ於テハ協議契約ヲ棄却スルハ其當然ノ結果ナリ又我商法案案由書及ヒ獨逸破産法第一八八條第一項第二號ニ依レハ協議契約カ破産債権者ノ一般ノ利益ニ反スルトキ例ヘハ協議契約ニ關スル破産者又ハ第三者ノ履行カ不確實ナルトキ破産債権者ニ對シ破産手續ノ實施カ協議契約ノ終了ヨリモ利益アルトキニ於テ協議契約ヲ棄却スヘキ旨ヲ規定シタリ我觀

行破産法ハ公益トシ破産債権者ノ一般ノ利益ト規定セサルヲ以テ佛派ノ學說ニ依リタルモノト認メ以上ノ如ク説明シタリ茲ニ我觀ニ依リテハ協議契約ノ裁判上協議契約ヲ棄却ノ原因ハ裁判所カ認所スル所ナルヲ以テ其種類ヲ明示スルコトハ爲シ能ハサル所ナレトモ協議契約ノ成立ニ關シ錯誤及ヒ強迫カ存シタルトキ(詐欺ニ關シテハ前述ノ説明ヲ參考スヘシ)協議契約ノ履行カ破産債権者團體ノ利益ニアラサルトキ協議契約ノ履行カ豫期セラレサルトキハ裁判所カ協議契約ヲ棄却スルコトヲ得ヘシ又ハ(一)破産債権者ノ多數決ニ依リテ(2)破産裁判所ハ前述シタル原因ノ有無ニ從ヒ唯協議契約ノ認可又ハ棄却ニ付テノ決定ノミヲ爲シ(第一〇四〇條中段)其認可又ハ棄却ニ付テノ決定協議契約ノ内容ヲ變更スルノ折衷の裁判ヲ爲スコトヲ得ス蓋シ協議契約ハ破産者及ヒ破産債権者團體トノ間ニ於ケル契約ニ外ナラサレハナリ(歐洲大陸殊ニ佛蘭西及ヒ獨逸ノ破産法ハ斯ル論旨ヲ是認シタレトモ英吉利破産法第二八條乃至第三一條)ニ於テハ免責命令ト稱シ破産裁判所ヲシテ破産債権者ノ承諾ナクシテ債権者ノ一部ヲ免除スルコトヲ得セシムルノ制度ヲ認メタリ)協議契約ノ認可

又ハ棄却ニ付テノ決定ハ言渡又ハ送達ニ因リ外部ニ對シテ成立ス(商法施行條例第二四條民事訴訟法第二四五條)獨逸破産法第一八五條(商法施行法第一四七條)又該決定ニハ理由ヲ付スルコトヲ適當トスルコト前述ノ如シ(第二八條)又(3)破産裁判所ハ協議契約ニ關スル裁判ト同時ニ異議ノ申立ニ付キ裁判ニ是レ迅速ニ事件ヲ終局セシムルノ法意ニ出ヅ(第二九條)又(4)破産者ハ協議契約ノ認可又ハ棄却ノ決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得(第一〇四條)下段(商法施行條例第二四條)商法施行法第一四七條(獨逸破産法第一八九條)佛蘭西商法第五一九條(第五二八條)破産者ハ協議契約棄却ノ決定ニ對シテハ勿論其認可ノ決定ニ對シテモ亦即時抗告ヲ爲スコトヲ得蓋シ認可セラレタル協議契約ニ錯誤カ存スルカ如キコトアレハナリ但シ協議契約カ破産債權者團體ノ利益ニ關スル規定ニ反シタルコトハ破産者カ協議契約ノ認可決定ニ對スル即時抗告ノ理由ト爲ラス、異議申立權者ハ協議契約ノ認可決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルハ勿論異議申立權者タル協議契約ノ成立ニ賛成シタル債權者モ亦該決定ニ對シ即時

抗告ヲ爲スコトヲ得何トナレハ斯ル債權者ニ對シ協議契約ノ認可以後即時抗告ヲ爲スノ理由カ成立スルコトアレフ以テナリ例ヘテ認可以後不正行爲ヲ發見シタルノ類異議申立ノ權利アル者ハ異議申立ヲ爲シタル者ト同一意義ニアラス隨テ異議ノ申立ヲ爲サリシ債權者ト雖モ苟モ異議申立ノ權利ヲ有スル以上ハ協議契約ノ認可決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得佛蘭西ノリオンカ及ヒルノ一氏カ異議ノ申立ヲ爲サリシ債權者ハ認可其モノノ不當ナル場合ニアラスンハ協議契約ノ認可決定ニ對シ不服ヲ申立タルコトヲ得蓋シ若シ反對ニ論セハ異議申立期間ヲ限定シタルノ法意ヲ間接ニ無視スルニ至ルヘシトノ論說ハ我破産法ノ解釋トシテ探ルニ足ラス(即時抗告ヲ申立シル權利有スル者ハ其期間經過後ニ於テ參加人トシテ抗告ヲ提起シタル權利者ヲ補助スルコトヲ得ルハ言フ埃タス(民事訴訟法第五三條)獨逸破産法ハ管財人ヲ意見陳述ノ地位ニ立タシメタルカ故ニ管財人ニ抗告申立權ヲ認メス佛蘭西商法ハ管財人カ異議申立權ナキヲ以テ協議契約認可ノ裁判ニ對シテハ不服申立ヲ爲スコトヲ得サレトモ協議契約棄却ノ裁判ニ對シテハ總破産債權者ノ利益ノ爲メ

ニスルノ法意ニ基キテ不服申立ヲ爲スコトヲ得。即ち前記ノ抗告ノ抗告裁判所ハ即時抗告ニ付キ口頭辯論ヲ經テ又ハ之ヲ經シテ裁判ス。民事訴訟法第四六二條前者ノ場合ニ於テハ公告ヲ以テ辯論期日ヲ總利害關係人ニ知ラシメ且ツ破産者其相手方ヲ呼出ササルヘカラス又裁判ヲ言渡ササルヘカラス後者ノ場合ニ於テハ職權ヲ以テ裁判ヲ抗告人ニ送達セサルヘカラス但シ抗告裁判所カ第一審ノ裁判ヲ變更シタル場合ニ於テハ尙ホ該裁判ヲ第一審ニ於テ協議契約ノ認可手續ニ關與シタル者ニ送達セサルヘカラス。

(d) 協議契約ノ認可ニ關スル裁判ノ確定。協議契約ノ棄却決定カ確定シ即チ不服ヲ申立ツルコト能ハサルニ至リ且ツ其棄却原因カ補正スルコト能ハサルモノナルトキハ(第一〇四一條)破産者各破産債權者及ヒ管財人ハ更ニ認可ヲ求ムル申立ヲ爲スコトヲ得。蓋シ斯ル場合ニ於テハ申立ヲ重スルモ到底其目的ヲ達スルコトナケレハナリ然レトモ協議契約ノ棄却原因カ補正スルコトヲ得ヘキモノナルトキハ形式上ノ缺點更ニ認可ヲ求ムル申立ヲ爲スコトヲ得蓋シ斯ル場合ニ於テ形式上ノ缺點カ補正セラレタルニモ拘ラス認可ヲ拒絕スル

ハ何等ノ理由ナク且ツ酷ニ失スレハナリ。蓋シ協議契約ノ認可決定タルトキハ破産手續カ實體上終局シ形式上終局セズ破産裁判所カ協議契約ノ認可決定ノ確定以後第四十八條ノ規定ニ準シ破産手續ノ終局決定ヲ爲スニ因リテ破産手續ノ形式的終局ヲ來ス(獨逸破産法第一九〇條第一項)是レ配當ニ依レル破産手續ノ終局ニ付キ決定ヲ爲スト同シク效力ノ確實ナル基礎ヲ定ムルノ法意ニ外ナラス而シテ協議契約ニ依レル破産手續ノ終局決定以前ニ於テ(1)管財人ハ商法第四十八條ノ規定ニ準シ債權者集會ニ於テ職業上ノ計算ヲ爲スヘク(第一〇四三條第一項)第一〇四八條獨逸破産法第八七條佛蘭西商法第五百十九條ニ依レハ管財人カ破産主任官ノ面前ニ於テ破産者ニ職業上ノ計算ヲ爲スモノノ如シ)又爭ナキ破産財團上ノ請求權(第一〇三一一條)及ヒ爭ナキ優先權ヲ以テ擔保セラレタル破産債權ヲ破産財團ヲ以テ辨濟シ又爭アル此二者ノ權利ニ付キ若クハ期限附條件附ナル此二者ノ權利ニ付キ破産財團ヲ以テ辨濟ノ擔保ヲ供スルヲ當然トス(獨逸破産法第一九一條(2)協議契約ニ於テ破産債權者ノ爲メニ認可ノ確定以後終局決定以前ニ於テ



供スヘキ擔保カ約定セラルタルトキハ該擔保ノ給付ヲ實施セサルヘカラス蓋シ斯ル事項ハ破産手續ノ終局ニ關聯スルモノナレハナリ總括トモ稱ル事項ノ終局以前ニ爲シタル破産手續ノ終局決定ヲ無効ナリト論結スヘカラス辨濟若クハ擔保ノ不爲ヨリ損害ヲ受ケタル各人ニ對シ管財人協議契約ニ於テ約定セラルタル擔保ノ給付ヲ爲シタルニ付キ責任ヲ負フ者ハ協議契約ニ於テ特定スレトモ通常管財人カ斯ル責任ヲ負フニ似タリカ損害賠償ノ責ニ任スルニ關シ協議契約ニ依レル破産手續ノ終局決定ハ協議契約ノ認可決定ヲ確定ヲ前提要件トス故ニ後者ノ確定以前ニ前者ヲ爲シタルトキハ其效力ノ有無カ條件ニ繋ルコトト爲ル又確定セタル協議契約認可決定カ再審ノ訴ニ付テハ要件ニ基テ抗告ニ依リテ民事訴訟法第四六六條屢棄セラレタルトキハ協議契約ニ依レル破産手續ノ終局決定モ亦失効ス協議契約ニ依レル破産手續ノ終局決定ハ配當ニ依レル破産手續ノ終局決定ト同シタ破産手續ノ終局方法ナルヲ以テ商法第千四十八條ニ準シ之ヲ公告シ以テ總利害關係人ニ知ラシメサルヘカラス又ハ其決定ハ有效ニ公告セラレタルニ因リテ效力ヲ發生ス破産法ノ宣告ヲ通知シタル

官廳ニハ又協議契約ニ依リテ破産手續ノ終局シタル旨ヲ通知スルヲ可トス  
(三) 效力

協議契約及ヒ之ニ基テ破産手續ノ終局ハ總破産債權者ノ利益及ヒ不利益ニ於テ羈束ノ效力ヲ生シ破産財團ニ對スル破産の差押權ノ消滅ヲ來シ其他次ノ效力ヲ生ス左ニ之ヲ分説スヘシ  
(A) 羈束ノ效力 協議契約ハ其當事者タル破産者ニ對シテハ勿論總破産債權者ノ利益及ヒ不利益ニ於テ羈束ノ效力ヲ生シ其破産債權者カ破産手續ニ參加シタルト否ト協議契約ノ決議ニ賛成シタルト否ト集會ニ出席シタルト否ト適當ニ代表セラレタルト否トヲ問ハス是レ協議契約ノ性質タル一般及ヒ同等ナル觀念ノ然ラシムル所ナリ協議契約ノ鞏固ハ債務辨濟ノ要件ナルカ故ニ總破産債權者ニ對シテ必要ナルノミナラス破産者モ亦協議契約ノ鞏固ナルカ爲メニ更ニ負擔ノ重キ約定ヲ爲シタルモノナルヲ以テ協議契約カ總破産債權者ニ對シ羈束力ヲ有セサルヘカラス然ラズシハ協議契約ノ鞏固ヲ害スルニ至ラン又法律ハ協議契約ノ鞏固ヲ欲スルカ爲メニ届出債權力爭ニ係リ爲メニ訴



訟中ニ在リテ破産裁判所ヨリ集會ニ參加スルコトヲ許サレタル債權者カ參加シテ協諾契約カ成立セタル後判決ヲ以テ該債權カ否認セラレタル場合ニ於テ協諾契約ノ當否ヲ不問ニ付シタリ是ニ由リテ之ヲ觀レハ協諾契約ハ其鞏固ノ爲メニ總破産債權者ニ對シ效力ヲ有セサルヘカラサルヤ明瞭ナリ獨逸破産法第一九三條第一項佛蘭西商法第五一六條瑞西破産法第三一一條等而シテ協諾契約ハ債權ノ組織及ヒ其確定ニ影響ヲ及ボスコトト爲シ隨テ債權ノ原因ハ協諾契約ノ爲メニ變更セラレルコトナシ又協諾契約ハ認諾、更改(佛國人「ローレン」氏ハ更改ナリト主張スレトモ通説ニアラス)及ヒ各債權ノ原因及ヒ確定ニ關スル和解ヲ包含スルモノニアラスシテ唯破産債權ノ正當ナル成立ヲ前提要件トシ配當ニ依ラスシテ破産關係ヲ消滅セシムル目的ヲ達スルカ爲メニ其主張ニ關スル權利ノミヲ變更スルノミ隨テ破産債權ノ基礎ハ從前ニ於ケルモノト異ナルコトナシ是ヲ以テ破産債權カ其届出ニ因リテ受ケタル變更第九八九條參考其他破産債權ノ評價ハ協諾契約ニ於テ準據スヘキモノナレトモ届出ヲ爲ササリ破産債權ハ協諾契約成立以後ニ於テ從來ノ體様ヲ以テ該契約ヨリ生シ

タル制限ノ下ニ於テ主張スルコトヲ得ヘシ但シ届出ヲ爲ササリ破産債權ノ給付カ不可分ニシテ直接ニ協諾契約ヨリ生シタル制限即チ割合并濟ヲ爲スコトヲ得サル場合ニハ給付ヲ金錢ニ評價シ其額ニ從ヒテ協諾契約ノ條項ヲ適用スルハ當然ナリ

別除請求權ハ協諾契約ノ爲メニ影響ヲ受クルコトナシ然レトモ別除請求權ヲ有スル破産債權者ハ其別除請求權ヲ拋棄セタル限度又ハ別除請求權ヲ行フニ當リ不足アルヘシト推定セラレル限度ニ於テ協諾契約ノ效力ヲ對抗セラル(獨逸破産法第一九八條下段破産手續繼續中破産債權者カ其破産債權ヲ破産者ニ對スル債務ト相殺シタルトキハ其相殺ハ亦協諾契約ノ爲メニ影響ヲ受クルコトナシ破産手續繼續中ニ於テ自己ノ破産債權ト破産財團ニ屬スル破産者ノ債權ト相殺スルノ權利ヲ有スル破産債權者ハ協諾契約ニ依レル破産手續ノ終局以後尙ホ有效ニ相殺權ヲ行使スルコトヲ得蓋シ協諾契約ハ斯ル相殺權ヲ喪失セシムルモノニアラサルコト別除權ト同一ナレハナリ其他破産債權ノ性質ヲ有セサル債權者ニ對シテハ協諾契約ノ效力ナキヤ言フ埃タス破産手續終局ト

破産財團ヲ破産者ニ引渡スコトヲ目的トスル協議契約カ破産債權者ニアラザル者ニ效力ヲ有スト云フハ解スヘカラサレハナリ。又破産債權者ニ對シテ破産者ノ效力ハ破産債權者ト破産者ノ共同債務者及ヒ物上擔保トノ關係ニ及ハス獨逸破産法第一九三條蓋シ反對ニ論結セハ對人擔保若クハ物上擔保ヲ有スル者カ其擔保權ノ喪失ヲ恐レ協議契約ノ成立ヲ妨クルヲ以テナリ。

(B) 破産の差押權ノ消滅 協議契約ハ配當ニ依ラスシテ破産手續ヲ終局スル方法ナルヲ以テ協議契約ノ完成ニ因リテ破産財團ニ對スル破産の差押權ノ消滅ヲ來シ協議契約ニ於テ別段ノ規定ナキ限ハ破産者カ破産財團ニ屬スル破産ニ付キ破産ノ宣告ニ因リテ喪失シタル占有管理及ヒ處分權ヲ回復ス故ニ管財人ハ其職務ヲ罷メ(第一〇四三條第一項佛蘭西商法第五一九條破産者ハ任意ノ管理及ヒ處分ヲ爲メニ該財產ヲ取戻スコトヲ得第一〇四三條第一項獨逸破産法第一九二條協議契約ニ於テ破産財團ニ對スル破産の差押權カ存續スル旨ヲ約定スルコトヲ得ス何トナレハ破産者カ破産財團ニ付キ任意ノ管理及ヒ處分ヲ爲スコトハ協議契約ノ要素の效力タルノミナラス破産手續ノ終了以後

實際ニ於テ資力アル者カ資力ノ少キ者ヨリモ却テ少キ利子ヲ支拂フハ他ノ理由ニ因ルモノナリ。

第三資本利用ノ生産費 資本主カ他人ヲシテ其實本ヲ使用セシムルニ付テハ自己自ラハ之ヲ使用セサル苦ヲ忍ハサルヘカラス且ツ幾分ノ危險ヲ冒スモノナリ此等ハ即チ資本主ノ負擔スル犠牲ニシテ彼ハ之ヲ利子ヨリ回收セサルヘカラス左レハ資本利用ノ生産費ハ

(イ) 自ラ資本ヲ利用セサルノ忍苦ニ對スル補償

(ロ) 危險ニ對スル保險料

ヨリ成ル保險料ハ利子ノ額ニ大關係ヲ有スルモノニシテ借主一身上ノ性質ニ因リ又ハ借入レノ目的ニ因リ又或ハ法律保護ノ狀況ニ因リテ資本主カ元金ノ償還又ハ利子ノ正確ナル支拂ニ十分ノ信用ヲ置ク能ハサル場合ニハ利子ハ勢ヒ高カラサルヲ得ス但シ此保險料ハ借主ニ於テ十分ノ擔保ヲ供スルルトキハ殆ト利子ノ中ヨリ取去ルコトヲ得ヘシ

第四支拂ニ供セラルルモノノ價值貸金ノ場合ニハ貨幣ノ價值)

## 第五資本主ノ競争

## 第六資本ニ對スル需要ノ競争

利子ハ此等ノ原因ニ由リテ支配セラルルモノナリトセハ當ニ知ルヘシ資本尙  
ホ未タ尠ク法律ノ保護尙ホ未タ完備セス交通制限セラレ信用ノ組織整ハサル  
未開ノ狀態ニ在リテハ一般ニ利子高ク又開明國ニ於テモ内亂外患等ノ爲メニ  
社會ノ秩序亂レタルトキ若クハ鐵道熱等ノ爲メニ資本ノ需要著シク増進シタ  
ルトキニ於テ利子著シク昇騰スルノ理ノ當ニ然ルヘキコトヲ

利子ハ文明ノ進歩ト共ニ漸次下落スルノ勢アリ是レ蓋シ社會文明ニ進メハ法  
律ノ保護具ハリ隨テ危險ニ對スル保險料ヲ減シ且ツ技術ノ進歩交通機關ノ發  
達販路ノ擴張信用制度ノ完備等ニ因リテ資本ノ供給増加シ又圓滑ニ行ハルル  
ニ至レハナリ

利子ハ又一國一經濟社會ニ於テ相平均スルノ傾向アリ何トナレハ他ヨリ割合  
ニ高キ利子ヲ生スルモノアレハ資本ハ茲ニ流入シ又他ヨリ割合ニ低キ利子タ  
ニ生セサルモノアレハ資本ハ漸漸茲ヨリ流出スヘケレハナリ然ルニ方今世界

的交通ノ發達ハ資本ヲシテ利子ノ低キ國ヨリ其高キ國ニ就クヲ得セシメ利子  
平均ノ此傾向モ亦世界的ト爲ルノ機運ニ向ヒツアリトス

## 第五章 企業利益

企業利益ハ企業者ノ受クル所ノ報酬ニシテ生産物ノ價ヨリ一切ノ生産費ヲ引  
去リタル剩餘即チ是ナリ若シ企業者ニシテ此生産費ヲ償フコト能ハザランカ  
企業者ハ企業利益ヲ得スシテ却テ損失ヲ被ルモノナリ

企業利益ハ二ツノ要素ヨリ成ル

(一)事項ノ管理監督ノ勞ニ對スル報酬 是レ最も廣キ意義ニ於テ所謂賃錢ノ  
一種ナリ且ツ此報酬ハ此勢力ヲ或人ニ委託シテ行ハシムル場合ニ於テ其人  
ニ與フル報酬ニ據リテ計ルコトヲ得ヘシ

(二)危險ノ負擔ニ對スル報酬

即チ是ナリ

企業利益ノ高低ニ影響ヲ及ボス所ノ事項種種アリト雖モ其重ナル者ヲ擧クレ

ハ下ノ如シ

第一 利子ノ高低 利子低ク企業利益割合ニ高ケレハ企業者ニ取リテ容易ニ資本ヲ利用シ得ルノ便アルト共ニ他方ニ於テ資本家又ハ勞力者ニシテ自ラ企業者ト爲ル者顯ハレ出テ爲メニ企業者ノ競争激甚ト爲リ利子高マリ企業利益下ルヘシ反之利子高ク企業利益低クレハ從來ノ企業者ニ取リテハ資本ノ利用困難ト爲リ又新ニ企業者タラントスル者少ク爲メニ利子下リ企業利益上ルヘシ

第二 賃錢ノ高低 賃錢高ケレハ勞力者ニ貯蓄ノ餘裕ヲ生ス隨テ勞力者ニシテ其貯蓄シタル所ノモノヲ以テ自ラ企業ニ從事スル者アルニ至ル是ニ於テ企業者間ニ競争ノ度ヲ高メ企業利益減少スルニ至ルコトアルヘシ

第三 企業ニ伴フ危險ノ大小 企業ニ伴フ危險大ナルトキハ勢ヒ此種ノ事業ニ從事スル者少ク隨テ企業利益モ大ナリ

第四 企業ノ大小 大企業カ小企業ニ比シテ生産及ヒ販賣上有スル長所ハ企業利益ヲ大ナラシムルコトヲ得ルナリ

第五 企業者ニ必要ナル性質 企業ノ經營容易ナラス企業者ノ具フヘキ性質モ重大ナルトキハ企業者ノ數ニ自ラ限アリ隨テ其企業利益ハ大ナルヘシ

第六 獨占 事實上又ハ法律上獨占ノ業務ニ在リテハ企業利益ヲ多カラシムルコトヲ得ヘシ

企業利益ハ相平均スルノ傾向アリ然レトモ其實際ニ顯ハルヲ妨クル種種ノ事情アリ即チ

(イ) 一 事業ニ付テ其企業利益ヲ知ルノ難キコト

(ロ) 事業ニ因リテ特別ノ資本ヲ要スルコト、例ヘハ紡績業ニ從事スル者カ製紙業ノ利益多キヲ見テ之ニ轉セント欲セハ紡績機械ヲ賣リ更ニ製紙機械ヲ買入レサルヘカラス之ヲ爲スニハ往往大ナル損失ヲ受クヘシ

(ハ) 事業ニ因リテ特別ノ經濟上技術上ノ智識技能ヲ要スルコト、例ヘハ製紙業等ニ此等ハ皆容易ニ轉業ヲ許ササル事情ナリ左レハ資本カ事業上重キヲ爲ササル場合成ハ速ニ大ナル損失ヲ被ラスシテ資本ノ形ヲ變ヘ得ヘキ場合若シハ容易ニ尋常ノ智識技能ヲ修メ得ヘキ場合ニ於テハ企業利益ノ平均ヲ見ル

ニ至ルコト易カルヘシト雖モ然ラサル場合ニ於テハ企業利益ノ平均容易ニ高ムヘカラサルナリニテハ其ノ故ハ資本ノ額ノ増減ハ企業利益ノ變動ノ趨勢ヲ觀レハ企業利益ハ漸漸低落スルノ傾向アリ是レ蓋シ教育ノ進歩危險ノ減少資本ノ増加ニ伴フ利子ノ下落等ニ原因スルモノナリトス

### 經濟學各論終

(三十三年度講義録)

法學士 矢作榮藏 講述

## 經濟學各論

和佛法律學校發行

經濟學各論

指導士 矢野榮藏 編輯

三十三學堂編輯部

經濟學各論目次

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 第一編 生産論               | 一  |
| 第一章 生産ノ意義             | 一  |
| 第二章 生産ノ要素             | 三  |
| 第一節 自然                | 七  |
| 第一項 氣候                | 七  |
| 第二項 地勢                | 九  |
| 第三項 地味及ヒ地質            | 九  |
| 第四項 自然ノ動力及ヒ動力ヲ起ス資料ノ分配 | 一〇 |
| 第二節 勢力                | 一二 |
| 第一項 勢力ノ意義             | 一二 |
| 第二項 勢力ノ分類             | 一三 |
| 第三項 勢力ノ分量             | 一四 |



|     |                 |    |
|-----|-----------------|----|
| 第一目 | 勞力ノ生産力          | 一五 |
| 第二目 | 勞力ヲ爲ス人ノ感スル苦痛ノ分量 | 二二 |
| 第三節 | 資本              | 二四 |
| 第一項 | 資本ノ意義           | 二四 |
| 第二項 | 資本ヲ觀念ノ歷史的發達     | 二五 |
| 第三項 | 資本ノ内容           | 二九 |
| 第四項 | 資本ノ種類           | 三三 |
| 第五項 | 資本ノ生産ニ對スル效用     | 三七 |
| 第六項 | 資本ノ成立           | 三八 |
| 第三章 | 生産ノ組織           | 四六 |
| 第二編 | 貨財交易論           | 七一 |
| 第一章 | 貨財ノ交換           | 七一 |
| 第二章 | 交換價值            | 七七 |
| 第三章 | 貨幣              | 八七 |

|     |            |     |
|-----|------------|-----|
| 第一節 | 貨幣ノ起源      | 八七  |
| 第二節 | 貨幣ノ職分      | 八九  |
| 第三節 | 貨幣ニ要スル性質   | 九三  |
| 第四節 | 貨幣ノ鑄造法     | 九六  |
| 第五節 | 貨幣制度       | 九八  |
| 第六節 | 「グレシャム」ノ法則 | 一〇一 |
| 第七節 | 貨幣本位論      | 一〇三 |
| 第四章 | 信用         | 一六  |
| 第一節 | 信用ノ定義      | 一六  |
| 第二節 | 信用ノ種類      | 一七  |
| 第三節 | 信用ノ成立要件    | 一八  |
| 第四節 | 信用ノ利害      | 一九  |
| 第一款 | 信用ノ利益      | 一九  |
| 第二款 | 信用ノ害       | 二〇  |

|                  |     |
|------------------|-----|
| 第五章 貨幣ノ代用物       | 一二一 |
| 第六章 銀行           | 一二六 |
| 第一節 銀行ノ性質        | 一二六 |
| 第二節 銀行ノ種類        | 一二八 |
| 第一款 農業銀行         | 一二八 |
| 第一項 農業銀行ノ起源及ヒ其沿革 | 一二八 |
| 第二項 農業銀行ノ功績      | 一五二 |
| 第二款 工業銀行         | 一五三 |
| 第三款 商業銀行         | 一五四 |
| 第一項 預金銀行         | 一五五 |
| 第二項 紙幣發行銀行       | 一五九 |
| 第七章 手形交換所        | 一六一 |
| 第三編 貨財分配論        | 一六二 |
| 第一章 分配ノ取得        | 一六二 |

|             |     |
|-------------|-----|
| 第二章 地代      | 一六五 |
| 第三章 貨錢      | 一七一 |
| 第一節 貨錢ノ意義   | 一七一 |
| 第二節 貨錢支拂ノ形式 | 一七二 |
| 第三節 貨錢ノ決定   | 一七五 |
| 第四節 貨錢基金說   | 一八一 |
| 第四章 利子      | 一八三 |
| 第五章 企業利益    | 一八七 |

蘇海學各篇目次

蘇海學各篇目次

|                |     |
|----------------|-----|
| 第一章 金葉時表       | 一八五 |
| 第二章 四子         | 一八三 |
| 第三章 寶鏡、寶鏡、寶鏡   | 一八二 |
| 第四章 寶鏡、寶鏡、寶鏡   | 一八一 |
| 第五章 寶鏡、寶鏡、寶鏡   | 一八〇 |
| 第六章 寶鏡、寶鏡、寶鏡   | 一七九 |
| 第七章 寶鏡、寶鏡、寶鏡   | 一七八 |
| 第八章 寶鏡、寶鏡、寶鏡   | 一七七 |
| 第九章 寶鏡、寶鏡、寶鏡   | 一七六 |
| 第十章 寶鏡、寶鏡、寶鏡   | 一七五 |
| 第十一章 寶鏡、寶鏡、寶鏡  | 一七四 |
| 第十二章 寶鏡、寶鏡、寶鏡  | 一七三 |
| 第十三章 寶鏡、寶鏡、寶鏡  | 一七二 |
| 第十四章 寶鏡、寶鏡、寶鏡  | 一七一 |
| 第十五章 寶鏡、寶鏡、寶鏡  | 一七〇 |
| 第十六章 寶鏡、寶鏡、寶鏡  | 一六九 |
| 第十七章 寶鏡、寶鏡、寶鏡  | 一六八 |
| 第十八章 寶鏡、寶鏡、寶鏡  | 一六七 |
| 第十九章 寶鏡、寶鏡、寶鏡  | 一六六 |
| 第二十章 寶鏡、寶鏡、寶鏡  | 一六五 |
| 第二十一章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一六四 |
| 第二十二章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一六三 |
| 第二十三章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一六二 |
| 第二十四章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一六一 |
| 第二十五章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一六〇 |
| 第二十六章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一五九 |
| 第二十七章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一五八 |
| 第二十八章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一五七 |
| 第二十九章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一五六 |
| 第三十章 寶鏡、寶鏡、寶鏡  | 一五五 |
| 第三十一章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一五四 |
| 第三十二章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一五三 |
| 第三十三章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一五二 |
| 第三十四章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一五一 |
| 第三十五章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一五〇 |
| 第三十六章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一四九 |
| 第三十七章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一四八 |
| 第三十八章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一四七 |
| 第三十九章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一四六 |
| 第四十章 寶鏡、寶鏡、寶鏡  | 一四五 |
| 第四十一章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一四四 |
| 第四十二章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一四三 |
| 第四十三章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一四二 |
| 第四十四章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一四一 |
| 第四十五章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一四〇 |
| 第四十六章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一三九 |
| 第四十七章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一三八 |
| 第四十八章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一三七 |
| 第四十九章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一三六 |
| 第五十章 寶鏡、寶鏡、寶鏡  | 一三五 |
| 第五十一章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一三四 |
| 第五十二章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一三三 |
| 第五十三章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一三二 |
| 第五十四章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一三一 |
| 第五十五章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一三〇 |
| 第五十六章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一二九 |
| 第五十七章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一二八 |
| 第五十八章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一二七 |
| 第五十九章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一二六 |
| 第六十章 寶鏡、寶鏡、寶鏡  | 一二五 |
| 第六十一章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一二四 |
| 第六十二章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一二三 |
| 第六十三章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一二二 |
| 第六十四章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一二一 |
| 第六十五章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一二〇 |
| 第六十六章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一一九 |
| 第六十七章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一一八 |
| 第六十八章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一一七 |
| 第六十九章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一一六 |
| 第七十章 寶鏡、寶鏡、寶鏡  | 一一五 |
| 第七十一章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一一四 |
| 第七十二章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一一三 |
| 第七十三章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一一二 |
| 第七十四章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一一一 |
| 第七十五章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一一〇 |
| 第七十六章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一〇九 |
| 第七十七章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一〇八 |
| 第七十八章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一〇七 |
| 第七十九章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一〇六 |
| 第八十章 寶鏡、寶鏡、寶鏡  | 一〇五 |
| 第八十一章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一〇四 |
| 第八十二章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一〇三 |
| 第八十三章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一〇二 |
| 第八十四章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一〇一 |
| 第八十五章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 一〇〇 |
| 第八十六章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 九九  |
| 第八十七章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 九八  |
| 第八十八章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 九七  |
| 第八十九章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 九六  |
| 第九十章 寶鏡、寶鏡、寶鏡  | 九五  |
| 第九十一章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 九四  |
| 第九十二章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 九三  |
| 第九十三章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 九二  |
| 第九十四章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 九一  |
| 第九十五章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 九〇  |
| 第九十六章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 八九  |
| 第九十七章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 八八  |
| 第九十八章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 八七  |
| 第九十九章 寶鏡、寶鏡、寶鏡 | 八六  |
| 第一百章 寶鏡、寶鏡、寶鏡  | 八五  |

# 校外生規則摘要

- 一 講義録ハ各部毎月二回發行シ滿一今年ヲ以テ卒業トス
- 一 一今年ヲ以テ完了セザルトキハ號外ヲ發ス
- 一 講義録ハ之ヲ三部ニ分ツ其發行日左ノ如シ
  - 第一部 毎月 五日 二十日
  - 第二部 毎月 十日 廿五日
  - 第三部 毎月 十五日 三十日
- 一 月謝金ハ全部壹圓、各一部四十錢トス但シ入學金ヲ要セス
- 一 校外生ハ本校講談會、討論會ニ出席傍聽スルコト及ヒ本校ノ出版ニ係ル書籍雜誌ハ特別ノ廉價ヲ以テ購求スルコトヲ得
- 一 校外生全部卒業證書ヲ有スル者ハ試驗ノ上校內生三年級ニ編入セラルコトヲ得
- 一 校外生ハ講義録中ノ疑義ニ付キ質問スルコトヲ得問題ハ一問毎ニ別紙ニ認メ且一問毎ニ返信用郵券ヲ封入スルコトヲ要ス
- 一 三個月以上月謝不納ノ者ハ退學者ト看做ス
- 一 月謝ハ東京飯田町郵便支局拂和佛法律學校會計係宛トスヘシ

明治廿二年十二月九日內務省許可

明治三十四年六月廿一日印刷  
明治三十四年六月廿五日發行

編輯者 東京市四谷區四谷中町三丁目三十八番地  
小田幹治郎

印刷者 東京市芝區西ノ久保町舟町十一番地  
金子鐵五郎

印刷所 東京市芝區西ノ久保町舟町十一番地  
金子活版所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省  
指定 和佛法律學校

(電話番町百七十四番)